

2018 富岡支援学校 研修集録

主体的・対話的で深い学びの実現を
めざした授業づくり
～主体的な学びを育てるために～
(1年次)



目 次

はじめに

校長 小河原 健一

I 研修の計画

- 1 研修テーマの設定にあたって
- 2 研修テーマ
- 3 研修仮説
- 4 研修内容
- 5 研修方法
- 6 研修計画（3年計画）
- 7 研修日程

II 各学部の取り組み

- 1 小学部の実践
 - (1) 1学年グループ
 - (2) 2学年グループ
 - (3) 3学年グループ
 - (4) 4・5学年グループ
- 2 中学部の実践
 - (1) 通常グループ
 - (2) 重複グループ
- 3 高等部の実践
 - (1) 通常グループ
 - (2) 重複グループ

III 研修のまとめ

- 1 小学部研修のまとめ
- 2 中学部研修のまとめ
- 3 高等部研修のまとめ
- 4 研修のまとめ
- 5 次年度の方向性

おわりに

教頭 佐藤 浩士

1 はじめに

校 長 小河原 健一

本校がいわき市の仮設校舎での教育活動を開始してから7年が過ぎようとしている。

当初、様々な困難に直面しながらストレスを抱えた児童生徒に対して、「分かる授業とは」「一人一人に寄り添う支援とは」をテーマとして研修がスタートした。その後、地域や関係機関の皆様の御支援をいただきながら、本校の児童生徒は落ち着きを取り戻し、今ではすっかり明るく元気に学校生活を送ることができている。

また、2年前には校名が「富岡支援学校」に変わり、中学部と高等部校舎を四倉高等学校に移転するなど、大きな変化もあった。

そこで、「校舎が離れても、全職員が全児童生徒のことをよく理解している学校」を目指した研修が進められ、その後、今年度からは、新学習指導要領の改訂を見据えた「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業作り～主体的な学びを育てるために～」をテーマとして設定し、さらに、県特別支援教育センターが主催する知的障がいのある児童生徒の教科指導の充実に関する地区協力校としての実践研究も加えて取り組むこととなった。

本研修を進めるに当たり、研修を支え、本校の教育活動にとって不可欠なものが毎日の「振り返り」である。児童生徒一人一人に対する障がいの特性、学習の課題、指導方針等を教師集団が共有する有効な手段であることはこれまでの実践で証明されており、我が校の看板の一つとなっている。

ずいぶん昔になるが、私が学生だった頃、指導していただいた先生から研究について指導された印象深い言葉がある。それは、「研究論文を読むときには、批判的に読みなさい。」という言葉だった。今、その言葉をもう一度かみしめてみれば、論文を肯定的に読むのではなく批判的に読むことによって、物事をより深く考えようとしたり、また、他の手立てはないか、自分だったらどのように展開するのかなど、より広い視野で捉えたりすることにもつながるということなのだと思い至った。

この研修収録を手にした皆様には、ぜひ、深く、広く、時には疑いながらお読みいただければ幸いである。そうすることによって、障がいのある子どもたちの成長につながるより良い支援の在り方、考え方につなげてほしいと願うからである。

I 研修の計画

1 研修テーマの設定にあたって

仮設校舎である本校は、本校舎に小学部、移動して2年目になる四倉高校内にある四倉校舎に中・高等部を措置している。昨年度は、2つの校舎に分かれても小・中・高等部の三つの学部を一つの学校として一体化できるようにするための実践に取り組んできた。昨年度の取り組みの課題として、「授業の振り返り」があげられる。教科、作業学習などの集団活動、合同学習の場面での児童生徒の変容や授業の進め方、発問等に関して意見を交換し合い、次の授業に生かすことが大切であり、授業改善に向けた場にする取り組みを続けていくことが必要となる。

よって、今年度から3年間の研究として学習指導要領の改訂を受けて、研究テーマを「主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業づくり」とし、新学習指導要領のポイントについて学びながら授業改善を3つの視点から考えていきたい。3年次計画で研究を進めるにあたり、今年度は1年次として本校の学校教育目標である「すすんで 学び」をめざし、「主体的な学びを育てるために」という副題を設定し、児童生徒の主体的な姿を引き出す授業改善を行っていく。そのためには、「授業の振り返り」を軸として毎日の授業で児童生徒の主体的に活動する姿をどのようにとらえ、その姿を引き出すためには、授業の中でどのような手立てを講じればいいのかを4つの観点から考え、本校における主体的な姿、主体的な学びを育てるための授業改善について考えていきたい。

2 研修テーマ

「主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業作り」
～主体的な学びを育てるために～（1年次）

3 研修仮説

日々の授業において、単元における児童生徒の適切な目標を設定し、児童生徒の主体的な姿に着目して支援の工夫を4つの観点から行い、評価・改善を繰り返していくことで、児童生徒自身が、より前向きな動機や課題意識をもって活動に取り組むことができるであろう。

4 研修内容

- ① シートを活用しての授業の振り返り（PDCA）。
- ② 学部ごとに目的に応じた活用しやすい振り返りのシートづくり。
- ③ 4つの観点に応じた支援方法の探究

5 研修方法

- ① 「主体的な姿」とはどのような姿かを協議し、共通理解を図る。
- ② 日々の授業において、振り返りシートを活用しながら、児童生徒の課題、支援方法の課題を協議し、授業改善をする。

- ③ 学習集団や目的に合ったシートづくり。
- ④ 研究授業に向けて協議し、指導案の作成をする。
- ⑤ 研修会にて講師から専門的、客観的な視点から助言を得る。
- ⑥ 振り返りシートの整理をする。(まとめ)

6 研修計画（3年計画）

1年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現行の学習指導要領と新学習指導要領の違いを知る。 ・ 授業づくりの仕方や支援方法を明らかにし、児童生徒が主体的に学ぼうとする姿の実現を図る。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新学習指導要領の各教科における目標と内容を関連付けた指導について知る。 ・ 1年次の主体的な姿をめざす授業改善を生かし、対話的な学びの姿の実現を図る。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科等の見方・考え方について知る。 ・ 1、2年次の授業改善を生かし、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。
年間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修を通して明らかになった指導・支援方法などを個別の指導計画に生かす。

7 研修日程

月	平成30年度 研究日程
4	<ul style="list-style-type: none"> ○全体研修計画、教育課程等の確認 ・ 研修テーマについての共通理解（全体研修会） ・ 教育課程についての確認（職員会議）
5	<ul style="list-style-type: none"> ○学部研修計画の確認 ○グループ研修
6	○公開授業に向けてのグループ研修
7	○公開授業・講演会（四倉校舎）
8	○公開授業反省
9	○中間報告会に向けたまとめ
10	○中間報告会
11	○公開授業に向けてのグループ研修
12	○公開授業・講演会（本校舎）
1	<ul style="list-style-type: none"> ○公開授業反省 ○研修のまとめ ○研修集録の作成
2	○全体研修会（研修のまとめ）
3	○平成31年度の研修構想と計画

1 小学部の実践

小学部1年生グループ

1 グループのテーマ

友達と一緒に『遊びたい』・『遊んでみよう』という気持ちを引き出す授業づくり

2 テーマ設定の理由

遊びの場面で、1人遊びが中心の児童や、学部などの大きな集団での活動が苦手な児童が多い。大きな集団の前段階である学年の集団で、一緒に活動したり遊んだりしながら少しずつ友達を意識することができるような授業づくりを行うため、このテーマを設定した。

3 授業の構想

(1) 児童生徒の実態（児童生徒観）

重複学級在籍の男子7名の集団である。学級などの少人数での活動は、落ち着いて取り組むことができるが、学年などの小集団になると難しくなることがある。また、教師に対して簡単な言葉や発声、身振りなどを使って関わろうとする姿は見られるが、同じ学年の児童を意識したり、関わろうとしたりする姿は、あまり見られない。

遊びについては、興味の幅が狭く、遊具などの遊び方が分からなかったり、1人遊びが中心になったりしている。また、順番や時間などの簡単なきまりを守ることが難しい児童もいる。

<単元における児童生徒の段階>

- ・遊びに関すること（小学部生活科1段階）
- ・人とかかわりに関すること（小学部生活科1段階）
- ・表現に関すること（小学部音楽科1段階・2段階）
- ・体づくり運動に関すること（小学部体育科1段階）

(2) 教材設定について（教材観）

集団での活動に少しずつ慣れるために、授業の前半では、ラジオ体操・リトミック・手遊び『とんくるりんぱんくるりん』を行い、後半に自由遊びを行う。ラジオ体操は、運動の基本となる動きが多く取り入れられているだけでなく、見本を見ながら模倣する力も育つと考える。また、学校生活だけでなく社会に出ても行う場面がでてくるため、小学部1年生の段階から取り組むことが必要であると考え。リトミックでは、ピアノのメロディを聴いたり、周りの動きを見たりしながら身体を動かすことで、聴く力や周囲を意識する力が身につくと考える。手遊びでは、2人組をつかって行うことで教師や友達の動きを意識したり、自分から相手にかかわろうとしたりする力が育つと考える。自由遊びでは、順番や時間、回数などを確認しながら行うことで、意識づけすることにつながると考える。

(3) 実践の意図（指導観）

ラジオ体操・リトミックでは、教師の見本やピアノのメロディなどを意識し、自分で考えて活動に取り組むことができるように、言葉かけや身振りなどの支援を徐々に減らしていく。手遊びでは、同じ学年の児童を意識することができるように、教師との2人組から児童同士の2人組に変えたり、簡単な自己紹介をしてから手遊びを行ったりする。自由遊びでは、簡単なきまりを少しずつ意識づけすることができるように、見本を見せたり、タイマーを鳴らしたりしながら継続して指導する。

4 授業の実際（振り返りシート含む）

始めは、教師と1対1の関わり の段階であったため、集団に慣れずに同じ空間で遊ぶことが難しい様子が見られた。そのため、ラジオ体操やリトミックのあとに自由遊びの時間を設定し、繰り返し取り組むようにした。教師と1対1でかかわることができる活動と、集団での活動を組み合わせて授業を重ねたことで、学年の小集団で活動することに慣れ、集団の中であっても、活動に落ち着いて取り組んだり、自由遊びの場面で遊具を自分で選択し、遊んだりすることができるようになった。

2学期以降では、ラジオ体操とリトミックに加えて、『とんくるりんぱんくるりん』の手遊びに取り組んだ。まずは、児童と教師でペアを作り、曲が1回終わるごとに教師が次々と横にスライドし、他のクラスの教師とかかわることから始めた。その後、少しずつ児童同士のペアを増やし、教師の動きを模倣しながら児童同士でもかかわることができるようになってきた。また、ペアが代わるごとに、自分の名前を言い合う自己紹介をすることで、名前を覚え、遊びの場面でも友達の名前を呼ぶ姿が見られるようになった。

5 成果と課題

(1) 成果

○授業改善について（シートを含む）

- ・振り返りシートを参照

○目標と評価

- ・1学期の目標と振り返りシートの達成度の結果を受けて、2学期以降は目標を1学期から継続したり、スモールステップで目標を設定したりしたことで、達成度が上がった。

○主体的な姿

- ・ラジオ体操では、毎時間1つの動きを取り上げ、ゆっくりなテンポで確認することで、体操の方法や順番を覚え、見通しをもって取り組むことができた。
- ・リトミックでは、準備から片付けまでの流れを、様々な曲を聞き分けて自分から取り組むことができた。
- ・自由遊びの場面で、自分から遊びたい遊具を選択することができた。

・『とんくるりんぱんくるりん』の手遊びで、目の前のペアの児童や次のペアの児童を意識してタッチや手をつないだり、自分から次のペアの場所に移動したりすることができるようになった。

・一人遊びをしている場面もあるが、自分から教師の手を引くなどの、教師を誘いかけるような様子が見られるようになった。

(2) 課題

○授業改善について（シートを含む）

・振り返りシートを参照

○主体的な姿

・集団での決まった活動ができるようになってきたので、今後は簡単なルールのある遊び（しっぽとりなど）に取り組んでみる。

・一人遊びから、教師と遊ぶようになってきた児童もいるため、教師を介して友達とやりとりをしたり関わったりする場面（「かして」「どうぞ」「ありがとう」「まぜて」など）を意図的に設定していく。



H30 小学部単元振り返りシート

(1) 学年

研修テーマ「友達と一緒に『遊びたい』・『遊んでみよう』という気持ちを引き出す授業づくり」

単元名「おともだちと あそぼう」

児童名	児童の育てたい力・伸ばしたい力	達成度
A	・友達のなかで楽しく遊ぶことができる。 ・教師を介して友達に声をかけることができる。	1・2・3・4
B	・友達と同じ空間で過ごすことができる。	1・2・3・4
C	・約束を覚え、学年の友達と遊ぶことができる。	1・2・3・4
D	・約束が分かり、学年集団のなかで遊ぶことができる。	1・2・3・4
E	・友達の遊びに興味をもち、教師と一緒にまたは1人で「まぜて」と言うことができる。	1・2・3・4
F	・簡単な約束が分かり、集団のなかで遊ぶことができる。	1・2・3・4
G	・様々な遊具や遊びに興味をもち、集団のなかで遊ぶことができる。	1・2・3・4

合わせた指導で行う教科指導

<国語>

- ・友達の名前を教師と一緒に確認する。
- ・教師の言葉かけを受けて、「かして」、「まぜて」などのやりとりをする。
- ・正しい遊具の名前を教師と一緒に確認する。
(遊具の名称は、子どもたちの実態に合わせる)

<算数>

- ・何回で終わりなのかを明確にする。
- ・決められた時間になったら終わる。
- ・遊ぶ際の約束の数(1つ目、2つ目など)や内容を教師と一緒に確認する。

授業で見られた児童の主体的な姿

<自由遊び>

- A：遊びの時間を楽しみにしており、自分から遊具を選んで遊ぶことができた。
また、自分のルールで遊ぶことができた。
- B：他の友達が近くにいっても、すべり台に1人で乗ることができた。
- C：三輪車遊びで、1周したら交換をする約束が分かってきた。(Eくんと)
- D：すべり台で友達の背中を押さずに乗ることが少しずつできるようになってきた。
- E：友達への意識が高まってきて、友達の名前を呼んで近づくことが増えてきた。
- F：教師の誘いかけを受けて、普段遊ばない遊具にもチャレンジできるようになった。
また、友達がブランコに乗っている様子を見て、ブランコ遊びに自分から入ることができた。
- G：教師の誘いかけを受けて、回旋塔やブランコなどの遊具で遊ぶことができるようになってきた。

<体操・リトミック>

- A：泣かずに集団の中で過ごせることが増えた。
- B：周りを見ながら身体を動かすことができた。
- C：友達と一緒に取り組もうとする姿が見られるようになった。
- D：並んで体操に取り組むことができるようになってきた。
リトミックでお馬さんなどのできる動きが増えてきた。
- E：友達の動きを意識して取り組む姿が見られるようになった。
- F：教師の動きや周りの様子を見て、身体を動かすことができるようになってきた。
- G：活動の流れが分かり、落ち着いて活動に参加することができるようになってきた。



H30 小学部単元振り返りシート

(1) 学年

研修テーマ「友達と一緒に『遊びたい』・『遊んでみよう』という気持ちを引き出す授業づくり」

単元名「おともだちと あそぼう」

児童名	児童の育てたい力・伸ばしたい力	達成度
A	<ul style="list-style-type: none"> ・友達とかかわることができる。 ・友達、教師の名前を覚えることができる。 	1・2・ 3 ・4 1・ 2 ・3・4
B	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス以外の友達とかかわることができる。 ・友達と同じ空間で遊ぶことができる。 	1・2・ 3 ・4 1・2・ 3 ・4
C	<ul style="list-style-type: none"> ・約束を確認しながら学年の友達と遊ぶことができる。 	1・2・ 3 ・4
D	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と一緒に学年集団の中で遊ぶことができる。 	1・2・ 3 ・4
E	<ul style="list-style-type: none"> ・教師を介して、学級や学年の友達と遊ぶことができる。 	1・2・ 3 ・4
F	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や教師の動きを見て、自分で活動に取り組むことができる。 ・簡単な約束が分かり、集団のなかで遊ぶことができる。 	1・2・ 3 ・4 1・2・ 3 ・4
G	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の手添え等の支援を受けながら、音楽を聴いて身体を動かすことができる。 ・様々な遊具や遊びに興味をもち、集団のなかで遊ぶことができる。 	1・2・ 3 ・4 1・2・ 3 ・4

合わせた指導で行う教科指導

<p><国語></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「かして。」や「どうぞ。」などのやりとりを教師と一緒に行う。 ・『とんくるりんぱんくるりん』の手遊びの前に、自己紹介をする。 	<p><算数></p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間を守る。 ・順番や回数を守って遊ぶ。
<p><音楽></p> <ul style="list-style-type: none"> ・リトミック ・手遊び 	<p><体育></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ体操

授業で見られた児童の主体的な姿

<p><自由遊び></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年の児童と同じ空間であっても遊具で遊ぶことができた。 ・他の児童が遊んでいる様子を見て、自分も遊びたいと教師に伝えたり、自分から関わりをいこうとする姿が見られたりした。 ・新しい遊び方を自分で見つけたり、行動範囲が広がったりした。 ・一人遊びが多かったが、教師に誘いかけるような姿がみられるようになった。 <p><体操・リトミック・手遊び></p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の見通しをもって1人で体操に取り組んだり、準備や片付けに自分から取り組んだりすることができた。 ・周りの様子を見て体操をしたり、姿勢を変えたりすることができた。 ・手遊びで目の前の児童に自分から手を伸ばしてタッチをしたり、手をつないで揺れたりすることができた。 ・教師が両手を支えると、自分で身体をねじるなどの動きをすることができた。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・『あいさつのときは止まって整列をする』などの約束を受け入れることが出来るようになった。



H30 小学部単元振り返りシート

(1) 学年

研修テーマ「友達と一緒に『遊びたい』・『遊んでみよう』という気持ちを引き出す授業づくり」

単元名「おともだちと あそぼう」

児童名	児童の育てたい力・伸ばしたい力	達成度
A	<ul style="list-style-type: none"> ・友達とかかわることができる。 ・友達、教師の名前を覚えることができる。 	1・2・ 3 ・4 1・ 2 ・3・4
B	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス以外の友達とかかわることができる。 ・友達と同じ空間で遊ぶことができる。 	1・2・ 3 ・4 1・2・ 3 ・4
C	<ul style="list-style-type: none"> ・約束を確認しながら学年の友達と遊ぶことができる。 	1・2・ 3 ・4
D	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と一緒に学年集団の中で遊ぶことができる。 	1・2・ 3 ・4
E	<ul style="list-style-type: none"> ・教師を介して、学級や学年の友達と遊ぶことができる。 	1・2・ 3 ・4
F	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や教師の動きを見て、自分で活動に取り組むことができる。 ・簡単な約束が分かり、集団のなかで遊ぶことができる。 	1・2・ 3 ・4 1・2・ 3 ・4
G	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の手添え等の支援を受けながら、音楽を聴いて身体を動かすことができる。 ・様々な遊具や遊びに興味をもち、集団のなかで遊ぶことができる。 	1・2・ 3 ・4 1・2・ 3 ・4

合わせた指導で行う教科指導

<p><国語></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「かして。」や「どうぞ。」などのやりとりを教師と一緒にやる。 ・『とんくるりんぱんくるりん』の手遊びの前に、自己紹介をする。 	<p><算数></p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間を守る。 ・順番や回数を守って遊ぶ。
<p><音楽></p> <ul style="list-style-type: none"> ・リトミック ・手遊び 	<p><体育></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ体操

授業で見られた児童の主体的な姿

<p><自由遊び></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年の児童と同じ空間であっても遊具で遊ぶことができた。 ・他の児童が遊んでいる様子を見て、自分も遊びたいと教師に伝えたり、自分から関わりをいこうとする姿が見られたりした。 ・新しい遊び方を自分で見つけたり、行動範囲が広がったりした。 ・一人遊びが多かったが、教師に誘いかけるような姿がみられるようになった。 <p><体操・リトミック・手遊び></p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の見通しをもって1人で体操に取り組んだり、準備や片付けに自分から取り組んだりすることができた。
--

た。

- ・周りの様子を見て体操をしたり、姿勢を変えたりすることができた。
- ・手遊びで目の前の児童に自分から手を伸ばしてタッチをしたり、手をつないで揺れたりすることができた。

た。

- ・教師が両手を支えると、自分で身体をねじるなどの動きをすることができた。

<その他>

- ・『あいさつのときは止まって整列をする』などの約束を受け入れることができるようになった。

小学部2学年グループ

1 グループのテーマ

友達と一緒に『やってみよう』から『やりたい』・『できた』につなげる授業作り

2 テーマ設定の理由

本学年は、昨年1年間、じっくりと学級で教師や同じ学級の友達と過ごす時間を中心に生活してきた。2学年になり、音楽や体育の時間の他に活動の枠を広げて、同学年の小集団で活動する時間を設け、学級の小集団では経験できない活動に取り組んでいくことにした。これまで対教師との関係が主であったが、同学年の友達との関係作りに取り組むことにした。

友達とのかかわり合いや一緒に過ごすことを通して『やってみよう』と思う好奇心や『やりたい』と思う意欲、『できた』と感じる達成感などを味わうことのできる授業作りをめざしてこのテーマを設定した。

3 授業の構想

(1) 児童生徒の実態（児童生徒観）

男子4名、女子3名の集団。友達に関心を持ち、自分からかかわりを持つとする児童は少ない。特定の友達や教師とのやりとりが中心で、他者に対して関心が薄く、友達からのかかわりを好まない児童が多い。少しずつやりとりを求める姿が見られてきた児童もいるが、かかわり方が自分の気持ちをうまく伝えられないため、教師が間に入ってつないだり、質問の仕方や受け答えの仕方の例を提示したりすることでやりとりが成立している。

遊びに関しては、簡単なルールが分かって参加できる児童や順番を待ったり、教師の支援を受けて一緒に行動したりしている。

〈単元における児童生徒の段階〉

- ・遊びや人との関わりに関すること（小学部生活科1～2段階）
- ・役割に関すること（小学部生活科1～2段階）
- ・聞く、話すに関すること（小学部国語科1～2段階）
- ・数量の基礎に関すること（小学部算数科1～2段階）

(2) 教材設定について（教材観）

2学年の合同学習に関しては、一緒に活動する内容を誕生会、畑作り、調理活動などを取り入れていくこととした。今年度の研修では、誕生会の活動を取り上げ、さまざまな内容を盛り込んで取り組んでいる。年間で6回行う誕生会では、準備、ゲーム、片付け、準備、会食などの内容を取り入れ、繰り返し同じ活動を行うことで、活動に対する見通しをもたせやすいと考える。誕生会の中では、誕生者を祝う歌を新しい曲にし、名前を呼んだり、年の数のリズム打ちを取り入れたことで、体を動かして楽しむことができ、覚えやすく、気持ちを盛り上げることができる。会の中に遊びの場面を設け、ボウリングゲームを取り入れ遊びを通してボールの受け渡しをして友達とのやりとりの場面を作ることができ、順番を意識したり友達のプレイを見たり拍手をしたりして注目しながら取り組ませることもできる。さらに、子どもたちが一番楽しみな活動として、おやつのお会食を行い、食べる楽しみを味わいながらも、おやつを交換し合うことで友達とのやりとりする場面を作ることができ、おやつ交換がやりとりのツールとして大きな柱になる。

(3) 実践の意図（指導観）

指導にあたっては、誕生会の会場準備や後片付け、司会などの役割を分担して取り組ませることで、それぞれが何をやるのかを分かりやすくして、自分から取り組めるようにしたり、少ない支援でできるようにしたりする手だての工夫をしていきたい。遊びや会食の場面では、友達とのやりとりに際し、教師が間に入って橋渡しをしたり、教師からお願いや誘った

りするやりとりの例を示していきたい。

4 授業の実際（振り返りシート含む）

友達へのかかわりや、やりとりに関しては、会食の中でおやつを交換する楽しさに気づき、自分から教師や友達の所へ行って積極的ににおやつ交換をしたいと動く児童が出てきた。友達への関心が薄く、かかわりを拒みがちな児童であるが、『やりたい』気持ちが強く育ち、自分から行動を起こす姿が見られるようになってきた。

「おやつを食べたい。」という強い気落ちで不安定になりがちな児童は、会食に参加するためには、約束を守らなければいけないという簡単なルールが分かってきて、落ち着いて参加できることが多くなり、「おやつが食べられる。」という安心感と満足度の高さにより教師とのやりとりや友達からのかかわりを受け入れるやりとりが成立しやすくなってきた。

その他、会場の準備や後片付けなどの役割を固定して取り組んできたことで、やるべきことが分かやすくなり、少ない支援でできることが増えてきている。また、会食の準備に関しては、トレーやお皿を並べる他に、お菓子の量に関して教師に確認して取り分けることができるようになってきた。

5 成果と課題

(1) 成果

○授業改善について

- ・2学年になり、これまでの学級中心の活動から、学年の小集団での活動を楽しむ活動を取り入れた。年間を通して実施できる誕生会を実施し、繰り返し同じ内容の活動に取り組んで内容を分かりやすくした。
- ・活動内容として、ボウリングゲームと会食の二つの内容を行い、場所を変えて実施したことで活動の流れを分かりやすくすることができた。

○目標と評価

- ・会場の飾りつけ、ゲームの準備、片付け、会食の準備など、実態に合わせて役割を分担し、少人数で組み合わせたことで自分の役割や、やるべきことが分かり、一人一人の力を引き出し、テーマに近づいた姿が見られた。

○主体的な姿

- ・ゲームの場面では、友達と向かい合ってボールの受け渡しをし、お互いの顔を見て「どうぞ。」「ありがとう。」のやり取りが育ってきた。
- ・会食の準備場面で、お菓子と飲み物の準備ができ、運んでいく際に、誕生者である主役の友達に「一番先に渡す。」と考えて行動する姿が見られた。
- ・これまでの積み重ねで、見通しをもって活動に参加できるようになったことで自分の役割や活動内容が分かり、楽しんで参加している姿が見られた。友達のかかわりを受け入れてやりとりが生まれたり友達と一緒にやる意識が育って協力したりする姿も見られるようになった。

(2) 課題

○授業改善について

- ・次年度に向けて、交流、共同学習を見据えた遊びの活動や大きな集団への参加を目指した活動を取り入れていく。

○目標と評価

- ・対教師との関係から、少しずつ友達のかかわり、やりとりを育てていく。
- ・友達の手本になることや、自分から友達と一緒に楽しむことを目指していく。

○主体的な姿

- ・遊びを通して対教師との関係から学級の友達、他学級の友達、他学年の友達とのつながり目指していく。



H30 小学部单元振り返りシート

(2) 学年

研修テーマ「友達と一緒に『やってみよう』から『やりたい』・『できた』につなげる授業作り」

単元名「お誕生会をしよう 5・6月」

児童名	児童の育てたい力・伸ばしたい力	達成度
A	<ul style="list-style-type: none"> 友達に「おめでとう」の気持ちを伝えることができる。 自分から友達に声をかけて会食やゲームを楽しむことができる。 	1・2・ 3 ・4 1・2・ 3 ・4
B	<ul style="list-style-type: none"> 友達の前で、ゆっくりはっきりと話をすることができる。 友達に声をかけて会食やゲームを楽しむことができる。 	1・2・ 3 ・4 1・2・ 3 ・4
C	<ul style="list-style-type: none"> 自ら、ボールを友達に渡すことができる。 友達や教師と一緒に、歌やゲームを楽しむことができる。 	1・2・ 3 ・4 1・2・ 3 ・4
D	<ul style="list-style-type: none"> 教師と一緒に、ボールを友達に渡すことができる。 教師と一緒に、歌やゲームを楽しむことができる。 	1・2・ 3 ・4 1・2・ 3 ・4
E	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒にボウリングゲームを楽しむことができる。 身振りで「ください。」を表現することができる。 	1・2・ 3 ・4 1・2・ 3 ・4
F	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に歌やボウリングゲームを楽しんで行うことができる。 教師と一緒に会食の準備をすることができる。 	1・2・ 3 ・4 1・2・ 3 ・4
G	<ul style="list-style-type: none"> 声に出してあいさつしたり、歌ったりすることができる。 友達とのやりとりを楽しんで行うことができる。 	1・2・ 3 ・4 1・2・ 3 ・4

合わせた指導で行う教科指導

<国語>

- 『誕生日の歌』を歌って「おめでとう」の言葉を伝えたり、お祝いする楽しさを知ったりできるようにする。
- ボウリングゲームで、友達にボールを渡す際に、「どうぞ。」「ありがとう。」のやりとりの場面を大切にす
- 会食の場面で、お菓子の交換をする際に、「交換しよう」「ありがとう」などのやりとりをしていく。

<算数>

- 「誕生日の歌」の中で「年の数だけ手をたたこう」の歌詞に合わせて、ゆっくりと8回手をたたく。
- 自分の順番を知ったりボウリングで倒れた数を数えたりする。
- 会食の場面で友達とお菓子の交換をして、1つと1つの対応ができる。

授業で見られた児童の主体的な姿

飾り付け：学級で作った飾りを教師と一緒に、喜んで飾り付けをしていた。

司会：司会担当の児童が張り切って取り組んでいた。進行表を見てゆっくりと読むことができた。

ゲーム：自分の順番を待つことができた。友達にボールを渡したり両手で受け取ったりできた。

会食：自分からお菓子の交換をしに友達のところへ行き、交換したいことを伝えることができた。



H30 小学部单元振り返りシート

(2) 学年

研修テーマ「友達と一緒に『やってみよう』から『やりたい』・『できた』につなげる授業作り」

単元名「お誕生会をしよう 1月」

児童名	児童の育てたい力・伸ばしたい力	達成度
A	・約束を守って友達と一緒にゲームを楽しむことができる。	1・2・3・④
B	・友達の前で、大きな声で会を進行することができる。	1・2・3・④
C	・教師と一緒にボールを受け取り、自ら友達に渡すことができる。	1・2・3・④
D	・教師と一緒にボールを受け取ったり、友達に渡したりすることができる。	1・2・③・4
E	・教師の言葉かけで、ボールを受け取ったり、渡したりすることができる。	1・2・3・④
F	・友達と一緒にゲームを楽しみ、ボールの受け渡しをすることができる。	1・2・3・④
G	・教師の言葉かけを受け「ありがとう。」「どうぞ。」を友達に言うことができる。	1・2・③・4

合わせた指導で行う教科指導

<国語>

・「おめでとう」のことばや『たんじょうびのうた』を歌ってお祝いする気持ちや伝える表現力を身につける。
 ・ボウリングゲームで友達に「どうぞ。」と言ったり友達の顔を見てボールを渡したりする。友達の顔を見て受け取ったり「ありがとう。」と言って両手で受け取ったりする力をつける。

<算数>

・『たんじょうびのうた』の中で年の数だけ手をたたく場面があり、リズムに合わせて8回たたけるようにする。
 ・自分の順番を知ったりボウリングで倒れた数を数えたりする。

授業で見られた児童の主体的な姿

- ・ボウリングゲームの場面で、友達の顔を見てボールを渡したり、渡されたボールをそっと優しく受け取ったりすることができた。また、「どうぞ。」「ありがとう。」のあいさつを自ら声に出して伝える場面が増えてきた。
- ・片付けの場面では、指示を聞いて仕事に取り組んだり、教師や友達の動きを見てそれぞれの仕事に取り組んだりすることができるようになってきた。準備の場面でも協力して取り組むことができた。
- ・話を聞く場面では、離席することが少なくなり、教師や司会の友達を見て取り組むことが増えてきた。

小学部 3 年グループ

1 グループのテーマ

「友達と一緒に楽しく取り組める学年合同学習の授業作り～自分の「役割」を意識して」

2 テーマ設定の理由

昨年度、共通のテーマでの遊びの学習を通して友達と一緒に活動することの楽しさが分かってきた。しかし、学習場面で自分の気持ちを優先して、きまりを守れなかったり、集団から外れて行動してしまったりすることもあった。そこで、学年合同学習では、みんなで楽しく取り組むために必要なきまりや「役割」を設定して取り組むことで、集団の中での自分の価値に気付いたり、主体的に考え取り組む態度につながったりすると考えた。

3 授業の構想

(1) 児童生徒の実態（児童生徒観）

役割に関すること（小学部生活科 2 段階）

言葉に関すること（小学部国語科 1～2 段階）

数量に関すること（小学部算数科 1～2 段階）

(2) 教材設定について（教材観）

・誕生会は児童の興味関心のある題材であり、祝う・祝われるという明確な役割分担がしやすい。また、会を運営するに当たって、必要な役割（会の進行や会食の準備）がそれぞれある。役割には必然性があるため、より責任感をもって取り組むことができると考えた

(3) 実践の意図（指導観）

・期待感を高めて誕生会ができるように、誕生会の看板や進行表、役割分担表作りなどの事前の準備を行った。また、意欲的かつ主体的に活動に取り組めるように、役割を決める際は、自分がやりたい役割を選択できるようにした。文字のみではイメージしにくい児童がいるため写真を提示した。ある一定の流れで、活動を繰り返し行うことで教師が介入せずに児童のみで活動できるようにした。

4 授業の実際（振り返りシート含む）

・初めは自分の役割を終えると、同じ役割グループの友達の活動を見ずに、興味のある他のグループの友達の様子を見に行ってしまうことが多かった。教室環境（イスの配置）を整えたり、友達の活動が正しく遂行されているかどうか確認する役割を設けたりすることで、回を重ねるごとに友達の活動に注目したり、一緒に取り組んだりすることができるようになってきた。誕生会の中で、協力する姿を引き出そうと、机を二人で一緒に運ぶという活動を意図的に取り入れたことで、日常場面でも友達と協力して机を運ぶような姿も増えてきた。

・一人一人に応じた役割を繰り返し行ってきたことで、役割への取り組みがスムーズになった。はじめに決めた役割への取り組みがスムーズになったことで、新たな役割を増やしても取り組めるようになった。

5 成果と課題

(1) 成果

○授業改善について（指導案・シート含む）

- ・シートを活用したことで共通理解して取り組めた。次の目標を立てる際に役立った。
- ・学年の先生たち全員が動きを確認していたことで子どもたちの活動のねらいにスポットを当てることができた。
- ・教科や主体的な姿の記入欄があることで意識しながら取り組めた。

○目標と評価

- ・4段階評価をしたことで振り返りができ、1・2ならどこが難しかったのか、4なら次の目標をどうするか話し合うことができてよかった。

○主体的な姿

- ・子どもたち自身が役割を選んだため、全員が自分の役割に責任感を持って取り組むことができた。
- ・ただ役割があるだけではなく、役割の先に楽しみがあるからこそ一人一人が進んできた。

(2) 課題

○授業改善について（指導案・シート含む）

- ・生活単元学習ではあったが、自立活動の視点からシートに記入してもよいのはいか。
- ・目標の最後に(自)、(国)など、記入すると把握しやすいのではないか。

○目標と評価

- ・目標を立てるときに、生活単元学習の中でもどの教科(国語・算数)にあたるのかを明確にしていくことが必要ではないか。
- ・他の生活単元学習へのどのようにつなげていくか。
- ・T・T間のみではなく、全体で共有しながら取り組めるとより具体的な目標を立てられるのではないか。

○主体的な姿

- ・だれがどんな場面でどんな主体的な姿があったのかシートに記入できるとよかったのではないか。



H30 小学部単元振り返りシート①

(3) 学年

研修テーマ「友達と一緒に 『楽しく』 取り組める 学年合同学習の授業作り」

単元名「誕生会をしよう、おでかけしよう」

児童名	児童の育てたい力・伸ばしたい力	達成度
A	・ お菓子配りでは、数を数えたり、友達の仕事の様子を見て待ったりすることができる。	1 (2) 3・4
	・ 司会進行では、お願いする友達の顔を見て話すことができる。	1 (2) 3・4
B	・ ごちそうさまのあいさつでは、友達の準備が整っているか確認をしてからあいさつをすることができる。	1・2 (3) 4
	・ 友達と一緒に数を数えたり、それぞれのお皿に一つずつ配られているか確認したりすることができる。	1 (2) 3・4
C	・ 自分の配るお菓子がわかり、友達と一緒に数を確認してお皿にお菓子をのせることができる。	1 (2) 3・4
D	・ 自分で線を確認しながら同じ量のジュースを注ぐことができる。	1・2 (3) 4
	・ 友達に「どうぞ。」と言ってコップを渡すことができる。	1・2 (3) 4
E	・ 友達の机を丁寧に拭くことができる。	(1) 2・3・4
	・ 友達と一緒に活動を楽しみ、落ち着いて行動できる。	1・2 (3) 4
F	・ 机ふきでは、友達を待ち、いっしょに仕事ができる。	1・2 (3) 4
	・ 教師の話聞き、順番やきまりを守って、落ち着いて活動できる。	1・2 (3) 4
G	・ 教師の話聞いて、ジュースの係など自分の役割に最後まで取り組むことができる。	1 (2) 3・4
	・ 友達とペースを合わせて、一緒に行動できる。	1 (2) 3・4

合わせた指導で行う教科指導

<国語>	<算数>
<ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつ (話す) ・ 司会進行 (読む・話す) ・ 友達同士のやりとり (どうぞ、ありがとうなど) ・ 係の名前 (ひらがな) を知る。 ・ 多い、少ないについて知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ量のジュースをつぐ。(かさ) ・ コップやお菓子の数を数える。(数) ・ 進行表の数字を見る。(順序数) ・ 一対一対応について知る (皿にひとつずつ)。

授業で見られた児童の主体的な姿

- ・ ろうそくの火を消すときに自分から電気を消す、カーテンを閉めることができた。
- ・ 教師のできましたという言葉聞いて机にアルコールスプレーをすることができた。
- ・ 教師の言葉かけで、前に出て、あいさつや司会など係の仕事に取り組むことができた。



H30 小学部单元振り返りシート⑥

(3) 学年

研修テーマ「友達と一緒に 『楽しく』 取り組める 学年合同学習の授業作り」

単元名「誕生会をしよう」

児童名	児童の育てたい力・伸ばしたい力	達成度
A	・友達と一緒に机運びや飾り付けの仕事に取り組むことができる。	1・2・ 3 ・4
	・司会進行では、お願いする友達の顔を見て話すことができる。	1・2・ 3 ・4
B	・友達に「かして」と言ってクッキー型を借りることができる。	1・2・ 3 ・4
	・友達に言葉をかけながら、協力して飾り付けをすることができる。	1・2・3・ 4
C	・友達と一緒に声に出して数えてお菓子の盛り付けをすることができる。	1・2・ 3 ・4
	・友達と一緒に机の配置を見て机を並べることができる	1・2・ 3 ・4
D	・6個数えて友達に「どうぞ。」や「おねがいします。」と言ってコップを渡すことができる。	1・2・ 3 ・4
	・係の友達の方を向いて「お願いします。」と言うことができる。	1・2・3・ 4
E	・ <u>指さしを見ながら</u> 、消毒スプレーの仕事に取り組める。	1・ 2 ・3・4 ※見る、手首の動き難しい
	・ <u>他の学級の友達と一緒に机を運ぶ</u> など活動できる。	1・2・ 3 ・4
F	・机ふきでは、 <u>友達がスプレーしたのを見て</u> 、 <u>4回拭く</u> ことができる。	1・2・3・ 4
	・教師の話やイラストを手がかりに、順番やきまりを守って、落ち着いて活動できる。	1・ 2 ・3・4 ※話を聞いて行動、難しい
G	・ <u>困ったときは近くの教師に支援を求めながら</u> 、自分の係(ジュースつぎ、歌の指揮)に取り組むことができる。	1・2・ 3 ・4
	・ <u>簡単な約束を守ったり</u> 、 <u>言葉かけを受け入れたりしながら</u> 行動できる。	1・ 2 ・3・4 ※わかってきて、ふざける

合わせた指導で行う教科指導

<国語>

・「貸してください。」「いいよ。」「今使っているから待って。」など、言葉で伝えてから物の貸し借りを行う。

<算数>

・作ったクッキーの数を数える。

授業で見られた児童の主体的な姿

・自分で作ったクッキーの数や友達が作ったクッキーの数を数え、比べていた。(多い・少ない)

4・5年グループ

1 グループのテーマ

友達のために『やりたい』友達と一緒に『できた』という気持ちを引き出すための授業作り

2 テーマ設定の理由

昨年度一年間の合同学習を通して、グループの友達と同じ活動をする経験や役割を分担して活動する経験をしてきた。毎回、同じグループで活動することで、友達と一緒に活動することに慣れ、児童同士の自発的なやりとりも見られるようになってきた。そのため、今年度は、児童が自分から友達とかかわることができる授業作りを行い、「一緒にやりたい」、「一緒にやると楽しい」、「○○さんのために○○したい。」という気持ちを引き出したいと考え、本テーマを設定した。

<単元における児童生徒の段階>

- ・役割に関すること（小学部生活科2段階（ア）（イ））
- ・言葉に関すること（小学部国語科2段階（イ））
- ・数に関すること（小学部算数科1段階（ア））

3 授業の構想

(1) 児童生徒の実態（児童生徒観）

友達に興味をもち自分から話しかけたり、肩をたたいて呼びかけたりする様子が見られている。学習の中では、友達と同じ作業をしたり、役割を分担して制作をしたりすることができ、どの児童も4学年以上のグループとしての意識をもって活動することができている。しかし一方で、同じ空間で同じ活動や役割分担をしての活動はできるものの、友達と一緒に活動することではなく、活動自体に楽しさを感じている児童もおり、友達と一緒に活動することに楽しさを感じたり、友達を意識して活動したりすることには課題のある児童もいる。

(2) 教材設定について（教材観）

友達のために『やりたい』友達と一緒に『できた』という気持ちを引き出すため、一人一人の友達に注目しやすい誕生会を合同で計画・実施する。誕生会では、プレゼントや会食、歌、ゲームなどの児童が楽しみやすい活動を取り入れることで、友達と一緒に活動できて楽しい、嬉しいなどの感情を共有したり、さらに友達が喜ぶことを考えたりすることができるのではないかと期待している。

(3) 実践の意図（指導観）

本単元では、昨年度の誕生会を振り返りながら、どんな活動をするのかを児童と一緒に考えていく。そのため、計画を立てる際に、誕生者の好きな遊びや好きな食べ物などを紹介することで、誕生者の好きなものが誕生会の中に取り入れられるよう授業を組み立てていく。また、準備の際には、意図的に他学級の児童と同じグループで活動する機会を設け、自然なかかわりをもつことができるよう促していく。さらに、一緒に活動している場面では、友達の気持ちを考えて行動したり、嬉しいや楽しいという気持ちを共有したりすることができるよう言葉かけをしていく。

4 授業の実際（振り返りシート含む）

- ・事前学習では、誕生者の好きな遊びや食べ物などを聞いて、誕生会でそれらが取り入れられるよう、計画することができた。
- ・買い物に行った際には、普段あまりかかわりのない児童とも、一緒にかごを持ったり、商品を持っている児童がかごに入れやすいようかごを近づけたりすることができた。回数を重ねることで、教師の言葉かけを受けてかかわりをもっていた児童が、自分から友達と手をつなごうと手を差し出す姿が見られた。
- ・調理実習の際に、教師の促しを受けて、生地を混ぜるときにボウルを押さえたり、カップに入れるときにボウルやカップをさえたりすることができた。手伝うと友達がやりやすいことが分かると、自分から押さえることができた。
- ・プレゼント作りでは、「〇〇さん喜んでくれるかな。」などと誕生者のことを考えて作ることができた。
- ・誕生会では、誕生者がプレゼントで遊んでいるのを見て、「〇〇さんが喜んでくれて僕も嬉しいです。」と伝える姿が見られた。教師が「〇〇さん嬉しそう。」と問いかけると、「うん。」と頷いたり、「嬉しそう。」と答えたりすることができた。事後学習で写真を見て振り返っている際にも、「〇〇くん嬉しそう。」と伝える姿が見られた。

5 成果と課題

(1) 成果

【授業改善について】

- ・始めは、買い物、プレゼント作り、調理のそれぞれの活動ごとに毎回一緒に活動するペアを交換して取り組んでいたが、3回目の単元から買い物に行ったペアとプレゼント作りをしたペアを固定して調理を行うようにした。ペアを固定することで、友達を意識して活動することができた。

【目標と評価】

- ・それぞれの児童の課題に対する目標を設定することができた。また、その目標を達成するための学習内容を設定することができ、毎回同じ活動の流れで授業を行うことができた。児童の課題に対して段階をおって支援することができ、年間の研修を通して達成度を高めていくことができた。

【主体的な姿】

- ・給食では、だれが隣に座っても落ち着いて活動することができるようになった。また、ほかの学級の児童の向かいの席を選ぶことが多くなった。
- ・給食のときに、教師と会話することが多かったが、友達に「おいしいですか。」と話しかけたり、教師の支援がなくても身振りでおいしいと返事をしたりすることができるようになってきた。
- ・音楽の授業では、今まではほかの学級の児童と一緒に発表することを嫌がっていた児童も、ほかの学級の児童を選んで発表することができるようになった。

(2) 課題

【授業改善について】

- ・プレゼントの作成では、同じ空間で活動したり役割を分担したりして活動することはできたが、友達と協力して何かを作る活動を設定できることが少なかった。そのため、友達と協力してプレゼントを作成する場面を意図的に設定していく必要があった。また、誕生会の司会進行や会食の準備などでも、友達と協力して取り組む活動をもっと設定できたのではないか。
- ・誕生会の事後学習では、写真を見ながら振り返りをした。友達と手をつないだり、協力して活動している様子を振り返ることができたが、「〇〇くん、喜んでくれるかな。」など、友達を意識した言葉に対する振り返りを写真では行うことができなかった。
- ・活動の中で、「友達のために丁寧に取り組む」などの目標を立てていたが、プレゼント作りでは、線の上を切る、はみ出さないで色を塗るなど、丁寧に取り組むための具体的な目標を児童に伝えることができたが、調理では、具体的に示すことができなかった。具体的に粉が全部混ざるように混ぜるやこげないように焼くなど、児童が丁寧にという言葉が児童がわかるように伝えてく必要があった。

【目標と評価】

- ・事前にグループの教員間で目標の達成基準について話し合う必要があった。友達のために、友達と一緒にという大枠からずれることはなかったが、具体的に達成基準の1はどのような姿か、2はどのような姿かなど、を決めておくことで評価がしやすかった。

【主体的な姿】

- ・主体的な姿を引き出すために、児童みんなが興味関心をもって取り組めるような学習内容を取り上げる必要があった。特に、会食で食べるものでは、誕生者にとっては好きな食べ物であっても、そのほかの児童にとってはあまり好きな食べ物ではないことがあった。



H30 小学部单元振り返りシート

(4・5) 学年

研修テーマ「友達のために『やりたい』、友達と一緒に『できた』

という気持ちを引き出すための授業作り」

単元名「 誕生会をしよう 」

児童名	児童の育てたい力・伸ばしたい力	達成度
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達のために丁寧にプレゼントを作ることができる。 ・ 自分の役割が分かり、友達と一緒に楽しみながら誕生会に取り組むことができる。 	1・2・3・ 4 1・2・ 3 ・4
B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と協力してプレゼントを作ることができる。 ・ 自分の役割が分かり、友達と一緒に最後まで誕生会に取り組むことができる。 	1・2・ 3 ・4 1・2・3・ 4
C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と協力してプレゼントを作ることができる。 ・ 自分の役割が分かり、友達のために取り組むことができる。 	1・2・ 3 ・4 1・ 2 ・3・4
D	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と協力して、誕生会の準備をすることができる。 ・ 友達のために、自分の役割に取り組むことができる。 	1・2・ 3 ・4 1・2・ 3 ・4
E	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達のために丁寧にプレゼントを作ることができる。 ・ 自分の役割が分かり、友達のために取り組むことができる。 	1・2・ 3 ・4 1・2・ 3 ・4

合わせた指導で行う教科指導

<国語>

- ・ 誕生会のプログラムを文字で書く。
- ・ 授業の流れをホワイトボードに文字で書く。
- ・ 授業で使用する道具など物の名前を言葉で確認する。
- ・ 誕生カード作りで自分の名前や誕生日をなぞり書きする。

<算数>

- ・ 作った誕生カードの枚数を数える。
- ・ 紙パックのジュースを8人に等しく分ける。
- ・ 形を意識しながら、紙をハサミで切る。

授業で見られた児童の主体的な姿

- ・ 誕生者がバナナを好きなことを知り、会食でバナナケーキを食べることを提案していた。
- ・ 教師の促しを受けて、友達と二人で買い物かごを持っていた。
- ・ 誕生者に喜んでもらえるように、丁寧に食べ物カードを作成していた。
- ・ 調理実習の時に、教師の促しを受けて生地を混ぜるときにボウルを押さえたり、カップに入れるときにボウルやカップを押さえたりしていた。手伝うとやりやすいことが分かったと、自分から押さえていた。
- ・ ゲームをしているときに「〇〇君がんばれー」と応援していた。
- ・ バナナケーキやジュースを配る時に、1番最初に誕生者に配っていた。
- ・ 他学級の友達の隣に嫌がることなく座ることができた。
- ・ 友達が持っているカゴに商品を入れることができた。
- ・ 写真で振り返った後に、誕生者が楽しそうにしていた姿を発表することができた。
- ・ 楽しかったこと、頑張ったことを発表することができた。



H30 小学部単元振り返りシート

(4・5) 学年

研修テーマ「友達のために『やりたい』、友達と一緒に『できた』

という気持ちを引き出すための授業作り」

単元名「 誕生会をしよう 」

児童名	児童の育てたい力・伸ばしたい力	達成度
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達のために丁寧にプレゼントを作ることができる。 ・ 自分の役割が分かり、友達と一緒に楽しみながら誕生会に取り組むことができる。 	1・2・3・4 1・2・3・4 (欠席)
B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と協力して買い物に行くことができる。 ・ 自分の役割が分かり、友達と一緒に最後まで誕生会に取り組むことができる。 	1・2・③・4 1・2・3・④
C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達のために丁寧にプレゼントを作ることができる。 ・ 自分の役割が分かり、友達と協力して取り組むことができる。 	1・2・3・④ 1・2・3・④
D	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と一緒に買い物に行くことができる。 ・ 自分の役割がわかり、友達と協力して取り組むことができる。 	1・2・3・④ 1・2・3・④
E	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達のために丁寧にプレゼントを作ることができる。 ・ 自分の役割が分かり、友達と協力して取り組むことができる。 	1・2・3・④ 1・2・3・④

合わせた指導で行う教科指導

<国語>

- ・ 授業で使用したり作成したりする物の名前を確認する。
- ・ はじめの言葉や司会など発表する場面を設定する。

<算数>

- ・ 買い物で一人でお金の支払いをする。
- ・ 調理で牛乳の量を図る。
- ・ 紙パックのジュースを8人に等しく分ける。

授業で見られた児童の主体的な姿

- ・ 買い物で手をつないで歩いたり、一緒にカゴを持ったりすることができた。教師以外でも嫌がらずに手をつなぎ続けることができた。
- ・ 今まであまり選ぶことのない友達を選び、自分から手をつなごうと手を差し出した。
- ・ プレゼントの魚釣り作りでは、友達が喜んでくれるように、魚の絵をすきまなく塗ることができた。
- ・ 調理では教師の言葉かけがなくても、ポウルを押さえたり、皿を持ってあげたりする姿が見られた。
- ・ 事後学習では、誕生会の写真を見て振り返り、教師の「〇〇くん嬉しそうかな。」の問いかけに「嬉しそうです。」「嬉しい。」などと答えることができた。

2 中学部の実践

1 単元名

「おおすげ祭の準備をしよう」（毛糸を使った制作活動）

2 単元設定の理由

おおすげ祭の作品展に向けて、本単元では制作活動として毛糸を使った作品作りを行う。昨年の作品展で靴やポンポンマスコットを作った経験を生かし、今年は素材を変えて編み物をして靴を作り、ポンポンマスコットを飾りたいと考える。

3 授業の構想

(1) 児童生徒の実態（児童生徒観）

本学級は1年生男子1名、2年生男子1名、女子3名、3年生男子1名、計6名の複式学級である。それぞれの能力や実態は様々であるが、おおむねものを作ることが好きで、制作活動に意欲的に取り組む生徒が多い。対象生徒Aも、ものを作ることが好きで、出来上がったものを見せてほめられたり、人と関わったりすることが好きである。その反面、集中力が続かなかったり、自分の苦手な作業や苦手なことがあると、「こんなのやりたくない」や「こんなのできない」などのマイナスな発言をしたり、その活動から逃げようとしたりするという課題がある。また、自分の力を過大に評価してしまい失敗してしまうことがある。

(2) 教材設定について（教材観）

昨年の作品展で作成した靴を、素材を変えて編み物を利用して作成する。また昨年作成したポンポンマスコットをより発展的に制作し、マスコットとして靴に取り付けたいと考える。昨年制作した経験から全員が取り組みやすい教材だと考える。また、NHK特集の映像や教師の手本があり、生徒たちがイメージしやすく、見通しをもって取り組める教材だと考える。

(3) 実践の意図（指導観）

手本や見本などを提示し作成のはっきりしたイメージを持たせることで、各自の工夫が期待できるようにする。またそれぞれが自分なりの表現ができるよう、過度に複雑にならないように働きかけ、完成への適切なイメージを持たせるようにする。さらに対象生徒Aについては、自分の能力に合ったものを選択するように促し、制作活動がスムーズにすすめられるようにする。分からないことや困ったことがあるときには教師に自分の気持ちを伝えるように指導する。

4 授業の実際（振り返りシート含む）

対象生徒の課題としてあげられる「集中力が続かない」、「自分の苦手なことなどがあるとマイナスな言動をしてしまうこと」を解決するために、「映像や手本、見本をみせるなどして、イメージを持たせやすくしたり、興味を持たせたりするようにして集中力を続けられるようにした。また、自分の能力にあった課題を意図的に選択したり、分からないときには教師に聞いたりするように指導することで、途中で嫌になることなく作業を進められるようにした。

実際に授業を行ってみて、手本を見ながら作業を行うことでイメージを持ちながら作業を進めることができた。編み方に慣れるまでは、集中できず、マイナスな発言をしてしまったりしたが、編み方をしっかりマスターすると集中して取り組むことができ、自分一人で間違えずに編み進めることができた。また、一列編むごとに「できました。これでいいですか。」など報告することができた。

5 成果と課題

(1) 成果

○授業改善について（指導案・シート含む）

・授業を行っていく中で対象生徒にとって有効な手立ての一つに見本や映像、完成品の提示があげられる。見本や映像を見ることでイメージしやすくなり、また完成品を提示することで見通しをもって取り組むことができた。二つ目に対象生徒の能力にあった課題の精選と提示があげられる。能力にあった課題に取り組むことで意欲的に作業をスムーズに取り組むことができた。

○目標と評価

・目標については、一つの授業内での目標や一つの活動内での目標など短時間での目標を立てることが有効である。制作においても「今日はここまで編む」といった目標を立て目標に向かって黙々と編む姿がみられ意欲的に取り組むことができた。

○主体的な姿

・決められた時間内集中して取り組むことや苦手なことから逃げないといった対象生徒の目標の達成に向け、上記に挙げた手立てのもと授業を行った。友達の様子を見て「僕もここまで編みたい」と口にするようになり、意欲的に取り組むことができた。

また、以前は「こんなの簡単だし。」といった発言が見られたが、友達の様子を見て、称賛する言葉もみられるようになってきた。

(2) 課題

○授業改善について（指導案・シートを含む）

・授業を行っていく中で、少し難しい内容になるとイライラしたり、固まってしまうことがあった。そのため生徒の実態や能力にあった課題の設定が必要である。そのためには、生徒の実態把握を行い、その能力にあった課題の選定、教材の準備が必要である。

○目標と評価

・目標については短時間での目標で、さらに具体的で達成可能な目標を立てるのが有効的である。評価については、振り返って次につなげるためにも、授業中に動画や写真を撮り、それを見ることで自己評価できるようにさせたいと考える。

○主体的な姿

・生徒たちが主体的で意欲的に取り組むことでそれぞれの課題が達成できるように今後も授業改善を行っていきたいと思う。



主体的な学びへの授業改善シート

学部・学年	中学部 1・2・3年複式	授業日 No.	10/4(金) NO. 1	主な活動内容	制作活動 (毛糸を使った制作活動)
教科・領域	生活単元学習	指導者	鈴木 美佳 花岡 賢	対象生徒の目標	段ボール編みの編み方が分かり、 集中して取り組むことができる。
題材名 単元名	「おおすげ祭の準備をしよう」				

児童生徒に育みたい 「主体的に学ぶ」姿	<ul style="list-style-type: none"> ・決められた時間内、気持ちを安定させて、制作活動に取り組む。 ・苦手なことや嫌なことから逃げずに、意欲的に取り組む。
------------------------	---

実現に向けて

P	現段階での課題	<ul style="list-style-type: none"> ・集中力が続かない。 ・自分の苦手なこと嫌なことから逃げる。マイナスな発言をする。
	解決のための 具体的な手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・映像を見せるなどして、イメージを持たせやすくしたり、興味を持たせる。 ・選択肢をいくつか設けることで、自分の作りたいものを見つけ、意欲的に取り組めるようにする。 ・補助具の工夫 ・分からないことがあったら、教師に質問するように伝える。

授業場面に当てはめる

D 学習内容	支援と指導上の留意点
1 挨拶 2. 本時の学習内容の確認 3. 制作活動の準備 4. 制作活動 5. 挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的な姿を引き出すための手立て」は※印をつける。 ※見本を提示し、具体的なイメージを持たせる。 ・自分の立てた設計図をもとに、毛糸の色を選ばせる。 ※作業を進めやすいように、太い毛糸を選ばせる。 ※必要に応じて補助具を使用する。

実施後の振り返り

C 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・見本を見ながら作業を行うことで、イメージを持ちながら作業を進めることができた。 ・補助具を使用せずに作業を進めることができた。 ・編み方になれるまでは、集中できなかった。
------	--

次の授業に向けて

A 授業改善の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・編み方をしっかり覚えさせることで、自信をもって取り組めるようにする。 ・分からないことがあったら、教師に聞くよう指導する。 ・できたらほめて、意欲を喚起する。
-----------------	--

主体的な学びへの授業改善シート

学部・学年	中学部 1・2・3 年複式	授業日 No.	10/12 (金) No.2	主な活動内容	制作活動 (毛糸を使った制作活動)
教科・領域	生活単元学習	指導者	鈴木 美佳 花岡 賢	対象生徒の目標	決められた時間内、集中して取り組む。
題材名 単元名	「おおすげ祭の準備をしよう」				

育みたい 「主体的な学び」の姿	<ul style="list-style-type: none"> 決められた時間内、気持ちを安定させて、制作活動に取り組む。 苦手なことや嫌なことから逃げずに、意欲的に取り組む。
--------------------	---

実現に向けて

P	現段階での課題	<ul style="list-style-type: none"> 集中力が続かない。 自分の苦手なこと嫌なことから逃げる。マイナスな発言をする。
	解決のための具体的な手立て	<ul style="list-style-type: none"> 映像を見せるなどして、イメージを持たせやすくしたり、興味を持たせたりする。 選択肢をいくつか設けることで、自分の作りたいものを見つけ、意欲的に取り組めるようにする。 補助具の工夫 分からないことがあったら、教師に質問するように伝える。

授業場面に当てはめる

D 学習内容	支援と指導上の留意点
1.挨拶 2.本時の学習内容の確認 3.制作活動の準備 4.制作活動 5.挨拶	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的な姿を引き出すための手立て」は※印をつける。 ※自分のたてた設計図を見ながら、具体的なイメージをもたせる。 ※編み方を確認し、しっかり覚えさせることで自信をもって取り組めるようにする。 ※分からないことがあったら、教師に聞くように指導する。

実施後の振り返り

C 評価	<ul style="list-style-type: none"> 編み方をしっかりマスターし、集中して作業を進めることができた。 「これでいいですか。」と自分から教師に確認することができた。 早く作業が進んでいる友達を見て、「もっとたくさんやりたい」と言いながら作業を進めていた。
------	---

次の授業に向けて

A 授業改善のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 完成品を提示することで、見通しをもって取り組めるようにする。 分からないことがあったら、教師に聞くよう指導する。 できたらほめて、意欲を喚起する。
-------------	---

1 単元名

「ディズニーの世界へようこそ」～ディズニーキャラクターのお面作り・衣装作り・版画展作品制作～

2 単元設定の理由

本学習グループは、重複障がい学級1年生男子1名と3年生男子3名で構成されている。今年度は、3年生が修学旅行でディズニーランドへ行くことが決まっており、3年生は関心が高く、楽しみにしている。また、1年生は次年度の修学旅行でも同じくディズニーランドへ行くことが予想され、自身でもディズニーランドやキャラクターへの興味をもっていることが書籍など見ている様子から予想される。このため、1学期は、自分たちの好きなキャラクターのお面作りから継続しておおすげ祭のステージ発表の衣装作り、ディズニーをテーマにした版画展出品の制作と、大きな単元としてディズニーの世界を中心にして生活単元学習を進めていく。生徒4名は実態が様々であるが、小集団の学習活動を積み重ねていくことで全員が落ち着いて生活する様子が見られる。

3 授業の構想

(1) 児童生徒の実態（児童生徒観）

対象生徒は、それぞれの単元毎に代えていき、個々の実態を把握しながら共通する手立てと、実態に応じた手立てを考えていく。制作活動においては、3年生Tは、好んで取り組む場面も見られるが手が汚れることが気になって取り組まない場面が見られる。3年生Sは、制作への取り組みは支援をうけて取り組むことができ、踊りや歌が好きである。3年生Kは、肢体不自由の重複障がいがあり、教師の支援を受けながら、縦の線を引くことなどの制作を行っている。1年生Tは、活動内容が明確で、制作に使用する道具の使い方が理解できると、自分一人で制作に取り組むことができるが、共同の場面では自分の活動以外だと離席して落ち着かないことがある。

(2) 教材設定について（教材観）

本単元は、7月にディズニーのお面作り、9月におおすげ祭ステージ発表の衣装作り、11月、12月にディズニーをモチーフにした版画展出品の制作とした継続単元である。お面作りでは、多くのキャラクターの存在を知り、「プーさん」「ミッキー」などキャラクターの名前を少しずつ覚え、キャラクターに対する関心を高め、おおすげ祭や修学旅行との関連をもたせていく。また、次時のキャラクターの衣装作りを行うことで、おおすげ祭でのステージ発表に見通しがもてるとともに、修学旅行で行くディズニーランドへの期待感がさらに高まるのではないかと考えた。また、授業の後半では、おおすげ祭で踊るディズニーのダンス「ナミナミナ」を取り入れることで、おおすげ祭への意欲も高められると考える。学習の流れが変わると不安定になる生徒がいるため、本単元では授業展開を毎回同じように衣装作り後にダンスを行うことにより見通しをもたせ、落ち着いて取り組ませたい。最後の版画展制作では、ディズニーの世界の総まとめとして、それぞれが演じたキャラクターを加えた版画の作品作りを行いたい。それぞれの小単元において、使用する道具を変えていきながら、使い方を知り、自分から取り組めるように工夫し、共同で制作する楽しさや達成感などを得られるような単元にしようとする。

(3) 実践の意図（指導観）

指導については、1番目のお面作りでは、様々なディズニーキャラクターを知っていくことや、自分から使いたい道具を選び、染色していくようにして、生徒の関心を高めるようにしたい。また、完成したお面をつけてダンスを取り入れることで、次時の衣装作りとおおすげ祭のステージ発表との関連をもたせたい。2番目の衣装作りでは、キャラクターの絵カードでその日に作るものを確認しながら2人で1つの物を作っていく共同制作としたい。キャラクター名を確認するときは、キャラクターの特徴の箇所を強調させたジェスチャーを交えて「バズ」「ウッディ」などの名前をキャラクターカードに合わせて音声でも伝え、覚えやすくしたい。衣装は段ボールに貼った障子紙に、ハケを使って色を染めて取り組んでいく。その際に自立活動などで学習してきた物や色の名前の理解を生かして、教師が提示した色カードや道具の写真カードを使いハケやポスターカラーを生徒自ら持

ってきてマッチングしながら制作できるようにしていきたい。染色では生徒の実態に合わせ、対象物の高さを変えたり、角度をつけたりすることで制作しやすい環境づくりに配慮する。3番目の版画制作では、新しい道具のローラーやこれまで学習してきたステンシルなどを組み合わせて、自らできるような工夫をしていきたい。

4 授業の実際（振り返りシート含む）

- ・授業の流れを決めていくことで見通しを持ちやすくなり、教師の話聞く姿勢が出てきた。
- ・教室環境の整備、授業の見通しの持たせ方（移動式ホワイトボード）により生徒に見やすく掲示することで、やる事が分かる。教師の話聞いて指定された絵の具を準備することができた。
- ・友達と協力する場面の設定や工夫を繰り返し取り組ませることで、生徒に根付く。
- ・授業に入る教師が複数いる。そのため、授業のねらいや様子などを把握するため、情報交換シートを作成し、授業に入る教師の共通理解につなげるようにする。
- ・振り返りシートにナンバーや日付を記入して順番を整理すると分かりやすい。

5 成果と課題

（1）成果

○授業改善について（指導案・シート含む）

対象生徒を単元毎に代えていく中で、1，3年生の共同学習における共通した有効な手立てとしては、制作等の学習における環境の整備があげられる。学習グループ全体としての環境整備は、制作時に必要な道具・教材の提示や使い終わったものについてはすぐに片付けること、生徒が作業しやすいように対象物を固定することなどがある。また、個々の実態に即した環境整備は、使用する道具によって立位であったり、座位であったりするなど、姿勢を変えることで力が入りやすいように工夫すること、対象物の角度や高さを変えること、かみ砕いたわかりやすい表現で言葉をかけることなどを実践した。この結果、生徒が本単元に活動する内容を理解し、見通しをもち授業に取り組むことができた。また、1つの単元内の活動順や流れを同じくすることで、より見通しをもつことができた。

○目標と評価

生徒の目標やねらいについては、個々の実態に応じた内容をより明確にしていくことで、主体的な姿に近づけるであろうと考える。実態の把握を行い、それぞれの課題を理解した上で単元の目標を決定に授業を展開していくことが重要である。評価については、i p a dなどICTを活用し、授業の様子を振り返ることで自分の姿を確かめ、できるようになったことや改善することなどを自ら確認することで次時の学習への意欲的な態度へとつながった。できたことは生徒の前で賞賛し、改善すべき点も言葉かけを工夫して、持続的な意欲を保つようにした。また、ICTの活用は、生徒の変容を確認して評価のしやすさにもつながった。

○主体的な姿

本グループにおける生徒の主体的な姿とは、『自分から』『一人で』学習に取り組む姿だと考察した。上記に記載した通り、自分から活動に取り組む、一人で取り組むためには、制作時に使用する道具のみを準備しておくことや、使い方を理解することなどが重要である。また活動しやすい環境を整備することで生徒自身が単元内に学習することを知って、活動できた。また、できるようになることで、自ら進んでもっとやりたいという要求が指差し等に見られるようになった。



座ってやると難しい 立って、角度をつけるとやりやすい 周りを段ボールで覆って、染めたい場所だけ染める

(2) 課題

学習環境の整備、ポイントを絞った授業、事前の教材研究や準備が必要であると感じた。生徒が見通しをもち、授業へ意欲的に取り組むことができるように上記に書いたような手立てを徹底していくことが課題である。また、教材研究や準備などについて、中学部の実態から曜日によって生活単元学習を受け持つ教師が代わるために、協力体制や役割分担はもちろん、授業後の情報交換や生徒理解の共有、改善の振り返りなどを行っていくことである。教師側が見通しをもって授業行うことが生徒も安心して授業へ取り組むことができる。最後に生活単元学習は新学習指導要領の改訂に伴い、教科を合わせた指導を意識して、教科の目標や内容との関連性を考えていかなければならない。

主体的な学びへの授業改善シート

学部・学年等	中3-1A	日時	9/27 5校時 No.2	単元名・ 題材名	ディズニー衣装作り
教科・領域	生活単元学習	指導者	鈴木 紳也、石塚多恵子 加藤 良一	場所	中3-1教室
対象生徒の 目標	<ul style="list-style-type: none"> 制作するキャラクターの名前を覚えて発言したり教師と合わせて声に出したりしようとすることができる。 教師の指示を聞いてハケやポスターカラーを自分で準備し、塗り残しがないように色塗りをすることができる。 手本となる動画を見ながら、友達と一緒にダンスをすることができる。 				

児童生徒に育みたい 「主体的に学ぶ」姿	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に声を出す。 自分から準備をして制作に取り組む。 学習内容を理解して意欲的に取り組む。
------------------------	--

実現に向けて

P	現段階での課題	最後まで集中して取り組むことが難しい。(仮説：理由は2つあるのではないかと。①やるべきことがよくわからない。②集中力が続かず飽きてしまう。)
	解決のための 具体的な手立て	<ul style="list-style-type: none"> ①やることや見る場所などを理解して取り組めるよう、具体的な指示、言葉かけを行う。ホワイトボードにて写真カードや具体物を用い、理解しやすくする。 ②活動の合間に明確な指示や言葉かけを行い、活動をわかりやすくするとともに、励ましの言葉や賞賛を行い、意欲を継続させるようにする。 ③生徒が制作しやすいように教材教具を工夫して、制作の方法に見通しをもちやすくする。

授業場面に当てはめる

D 学習内容	支援と指導上の留意点
1. キャラクターの名前や顔、色等を確認する。 2. バズやウッディの衣装のパーツを塗る。 (1) A がパーツを押さえ、B がハケで色を塗る。 (2) B がパーツを押さえ、A がハケで色を塗る。 (3) 2人で塗り残しがないか確認をする。(あれば塗り直して仕上げる。)	<ul style="list-style-type: none"> 移動式ホワイトボードで写真カードや道具カードを掲示する。生徒の正面で、より近い場所で視覚的な支援を行うことで傾聴する姿勢をとらせる。 A には、Bの様子を見ながらしっかり押さえるように言葉かけを行う。 B には、色を塗る場所や手元をよく見て塗るように言葉かけを行う。 (1) 同様に言葉かけを行う。 色のついていない部分をしっかり見て探すように言葉かけを行う。 むらなく塗ることができるよう、大きめのハケを使用する。また、パーツごとに単色にし、組み合わせて衣装ができあがるようにしたため、色がむらなく全体をそめることができるようにする。 気づきにくい部分は自分たちで気づくことができるように、「このあたりはどうか？塗っていないところはないですか？」等、指さしをしながら言葉かけを行うようにする。 上手にできたところは見落とさずにその場で賞賛し、周囲に伝え同様に賞賛してもらうようにする。

実施後の振り返り

C 評価

- 言葉かけは、一度ではなかなか伝わりづらいこともあったが、何度か同様に言葉かけを行うと、気をつけて見たり、塗ったりすることもあった。
- 生徒の正面においた移動式ホワイトボードは、生徒の聞く姿勢を高め、活動内容に見通しをもって取り組むことができた。
- 集中力が持続するのは前半30分ほどで、後半は言葉かけの回数が増えることが多かった。しかしできたところをほめると、より見る力や聴く力（集中力）、また意欲が高まっていた。
- 単色にしたパーツはお互いに押さえて固定してから染めたため、むらなく染めることができた。
- お互いに協力して制作できるように依頼する場面を意図的に設定できた。教師の言葉かけに合わせて声を出すことができた。

次の授業に向けて

A 授業改善の
ポイント

* 2人がそれぞれハケを使い塗っている部分を、教師が撮影し、最後に見せると賞賛しやすくなるのではないか。（※研究授業日に実施。）

主体的な学びへの授業改善シート

学部・学年等	中1-1 B	日時	12/3 4・5校時 No.4	単元名・ 題材名	版画展に出品する作品 を作ろう
教科・領域	生活単元学習	指導者	齋藤 隆寿、鈴木 紳也 花岡 賢	場所	中3-1 教室
対象生徒の 目標	<ul style="list-style-type: none"> • 道具の使い方を理解して、制作に取り組むことができる。 • 友達の制作の様子を離席せずに見ることができる。 				

児童生徒に育みたい 「主体的に学ぶ」姿	<ul style="list-style-type: none"> • 活動内容を理解して、意欲的に取り組む。 • 決められた時間内離席をせずに活動する。 • 制作に使う道具の使い方を覚えて、一人で制作に取り組む。
------------------------	---

実現に向けて

P	現段階での課題	<ol style="list-style-type: none"> ① 活動内容が明確だと指示されたことはできるが、自分のやることが終わると離席してしまう。 ② 授業の最初や初めて使用する道具などを使う場合は、やろうとせず手を添えてもらおうとする。(自信がない?経験がない?) ③ 早くやろうとして、活動が雑になってしまう。
	解決のための 具体的な手立て	<ol style="list-style-type: none"> ① 決められた活動に時間的な見通しをもたせ、活動内容を周囲よりも多くする。また、全体での活動時は椅子を使わないようにする。 ② 何度か使った道具は使い方の確認を実際に動かしながら言葉がけをして確認したり、初めて使用する道具の場合は一緒に使い方を練習したりして徐々に支援を減らして一人で行う時間を増やす。 ③ 道具を動かす時に言葉がけ(数を数えるなど)を行う。また、染色の場合強弱などにも注意するように言葉がけをする。 <p>※前回同様に生徒が学習しやすい環境づくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 切り絵が動かないようにテープで固定する。 • 教師が手で押さえる。

授業場面に当てはめる

D 学習内容	支援と指導上の留意点
--------	------------

<p>ローラーでお城の切り絵を使って屋根の色をつける</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的な姿を引き出すための手立て」は※印をつける。 <p>○本番用の台紙にローラーを使ってお城の屋根を染めることを伝える。 T→齋藤、S→鈴木紳、F→鈴木紳、K→T1、鈴木紳</p> <p>※切り絵の切り抜き部分を確認することで染める位置を理解して自らローラーを持って動かすことができるようにする。</p> <p>※ローラーでムラなく染めるために立ってやるように多目的室の机を使用する。</p> <p>※マスキングテープで切り絵を固定し、色を変えて染める部分にもテープで隠しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しの活動であるので、学習内容をよく理解して自らローラーを指さししてやりたいという気持ちを表していた。 <p>※一人一人が終わる毎に賞賛をして意欲を保つようにする。</p>
<p>ステンシルで花火をつくる</p>	<p>○本番用の台紙に切り絵をあてて、花火をステンシルで染めるように伝える。</p> <p>※花火の色は自分で選ぶようにする。あらかじめ花火の色は教師側で赤・黄色・橙色・桃色の4種類にしておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で桃色を選んだ。 <p>※白の絵の具を混ぜることを伝え、桃色と白を混ぜるように言葉かけをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よくなじむようにしっかりと混ぜることができた。 ・切り絵の切り抜いた部分を目で確認しながらステンシルを動かしていた。 <p>※上記と同じように順番を決めて、友達の活動を見る時間、自分が活動する時間を分けて共同で製作している意識付けを行う。</p>

実施後の振り返り

<p>C 評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を繰り返し行うことで見通しをもって取り組むことができ、意欲的に自分からやろうする姿があった。(指さしてやりたい気持ちを表していた) ・一緒に活動する友達のステンシルを行っている様子を見て、またやりたいという表出が指さしてであった。 ・継続した学習のため、道具の使い方も覚えて自信を持って染色していた。ステンシルでは、教師の言葉かけに応じて強弱をつけながら動かすことができた。 ・言葉かけに応じて片付けも協力して行っていた。
-------------	---

次の授業に向けて

<p>A 授業改善のポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道具の使い方を覚えてくると雑になって早くやろうとしてしまうので、言葉かけを継続しながら、丁寧に制作するようにする。 ・今後様々な制作をするにあたって、道具の使い方を覚えていく際は活動内容に見通しをもたせるため1つの単元の授業について、同じ流れで繰り返しの学習をして自信をもって取り組めるようにする。
--------------------	---

3 高等部の実践

高等部通常グループ

1 単元名

「働く力を身に付けよう」

2 単元設定の理由

通常学級の職業の授業は、今年度より学年をまたいだ縦割りグループで学習を行っている。生徒の実態に合わせた指導や支援ができるよう、単元ごとにグループを編成している。授業では、就労するための知識や技術、態度などを身に付けることを大きなねらいとして、授業を展開している。

本研修の対象グループは、通常学級1年生4名、2年生2名、3年生2名、計8名で構成されている。教師の口頭による指示が理解できる生徒もいれば、個別の説明が必要な生徒もいるなど実態差が大きい。1つの活動の中で個々の課題を解決していくことが難しい。しかし、生徒一人ひとりが個々の課題に取り組むことができるよう、活動内容を整理したり、場面設定を行ったりして授業を行い、生徒がそれに主体的に取り組むことができるようになれば、職業の授業として、大きな成果を上げることができるのではないかと考える。

そこで、本グループでは「働く力を身に付けよう」の指導をとおして、主体的な学びを育むための授業の在り方について検討することにした。

3 授業の構想

(1) 生徒の実態（生徒観）

本グループの生徒は、就労に関する学習を継続的に行っている。しかし、就労するために必要な力について、自分の課題を的確に把握している生徒は少ない。活動目標の設定については、既にできることや、簡単に達成できることを挙げるが多い。また、目標を意識して活動に取り組むという点においては、指導や支援が必要となる。

(2) 教材設定について（教材観）

「働く力を身に付けよう」では、軽作業を題材にして、生徒一人ひとりの課題に取り組めるような場面設定を行う。そこで、挨拶・返事、言葉遣い、性格（態度）、質問・確認、協調性、指示理解、話し方、行動力などについて、繰り返しの練習を重ねることで、職業生活に必要な基礎的コミュニケーションスキルを身に付けたり高めたりすることができる。

(3) 実践の意図（指導観）

生徒が活動中に自分で目標を確認することができるよう、ホワイトボードに一覧票を掲示する。また、目標の把握や反省をスムーズに行うことができるよう、一覧票とリンクしたワークシートを用意する。活動中は、教師からの指示や支援をできるだけ行わないようにして、生徒の主体的な姿を待つようにする。

4 授業の実際（振り返りシート含む）

- (1) 目標については、生徒一人ひとりの課題を整理しながら、教師が設定して提示した。生徒は、①ホワイトボードに掲示してある一覧票の中から自分の目標を探し、②その場で読み上げ、③座席に戻ってワークシートに記入した。目標の把握を確実にするために、3つの段階を踏ませた。
- (2) 生徒一人ひとりが課題に取り組むことができるよう作業内容を整理し、場面設定を工夫した。
- (3) 目標の達成度合いについては、生徒の実態により異なるため、授業を進めながら振り返りを行うなかで確認した。

5 成果と課題

(1) 成果

自分の目標がわかり、それを確認しながら繰り返し取り組んだことで、生徒の主体的な姿を引き出すことができた。以下に、その具体例を挙げる。

- ① 「丁寧な言葉遣いで話をする」ことが課題のAくんは、特に語尾の使い方が苦手である。報告で誤った使い方をした場合に、教師がホワイトボードにそれを記し、正しい言葉遣いに訂正して伝えたところ、それを自ら繰り返し発して練習した。3回目の授業あたりから、「丁寧な言葉遣い覚えるよ」と、活動前に話す姿が見られた。
- ② 「相手の顔をみて話す」ことが課題のBさんは、話をするときに視線が下がってしまう。相手の顔の「目と目の間」を見るよう指導すると、自分で目と目の間に指を置いて、確認してから報告に向かう姿が見られた。
- ③ 「分からないことを自分から質問したり確認したりする」ことが課題のCさんは、言葉を発することが苦手なこともあり、特に慣れない教師のところに行くことを避ける傾向がある。「教えてください」の手話を言葉と一緒に使うよう指導すると、手話を使って教えてほしいことを教師に伝えることができた。

(2) 課題

- ① ほとんどの生徒は、自分の課題にそった活動を行うことができた。しかし、なかには教師が意図する場面がなかなか現れない生徒もいて、作業内容と場面設定の検討が必要である。
- ② 作業に慣れてくると、教師が意図した場面が現れにくくなることがわかった。いくつかの作業種を用意することが必要である。

(3) まとめ

生徒は、自分の目標がわかり、それに組み入れるような環境があれば、教師の指示や支援が少なくとも、主体的に取り組むことができるということがわかった。今後の授業づくりに活かしていきたい。

将来の社会生活や職業生活をよりよいものとするため、現在の自分を見つめることで卒業後の生き方を考え、進路について自己選択・自己決定することのできる力を養う。他の教科等との関連を踏まえ、体験や経験を重視するとともに、働くことの大切さの理解を促し、勤労意欲や態度に重点を置き指導する。

「職場体験学習」については、地域企業等の理解と協力のもと、個に応じて実体験をとおして働く喜びを味わい、就労するための知識や技能、態度などを身に付けることの大切さについて理解を深めることができるよう指導する。

主体的な学びへの授業改善シート

学部・学年等	高等部通常学級	場所	工芸室	単元名・題材名	働く力を身に付けよう
教科・領域	職業科	指導者	黒澤朋美、水野穂乃花 佐藤雄哉	主な活動内容	軽作業

児童生徒に育みたい 「主体的に学ぶ」姿	・自分の目標がわかり、意識して取り組むことができる。
------------------------	----------------------------

実現に向けて

P	現段階での課題 (グループの実態)	・生徒の実態差が大きいので、一つの活動の中で個々の課題を解決することが難しい。
	解決のための 具体的な手立て	・目標がわかるように、一覧表とワークシートを用意した。 ・個々の目標が達成できるように、作業内容を整理し場面設定を工夫した。

授業場面に当てはめる

D 学習内容	支援と指導上の留意点
(1) 目標一覧表から自分の目標を探す (2) ワークシートの目標記入欄を見て、当てはまる所に○を付ける。 (3) 作業を行う。 (4) 反省をする。	(1) 目標は、生徒の実態に応じて事前に教師が設定しておく。 (2) 目標は一覧表にしてホワイトボードに提示しておく。生徒は、一人ずつ前に出て一覧表から自分の目標を探し、見つけたら読み上げる。 (3) 生徒が課題に取り組めるよう場面設定を工夫し、指導はその場で行うようにする。 (4) 教師の指示や支援はできるだけ行わないようにする。

実施後の振り返り

C 評価	(1) 教師が事前に生徒個々の目標を設定したことで、生徒の実態や取り組むべき課題を共有しながら指導にあたることができた。 (2) 生徒は自分の目標がわかり、主体的に取り組むことができた。 (3) 成果が表れた生徒 ① 「丁寧な言葉で話をする」ことが課題の A くんは、誤った使い方をした場合に教師がホワイトボードを使って正しい言葉遣いを伝えたところ、それを自ら繰り返し発するなど意識して取り組む姿が見られた。 ② 「分からないことを自分から質問したり確認したりする」ことが課題の B さんは、言葉を発することが苦手であるため、「教えてください」の手話を教えた。教師の促しをうけると教師のところへ行き、手話を使って「教えてください」と言いに行くことができた。
------	--

次の授業に向けて

A 授業改善のポイント	・課題が明確になった生徒については、それに合った手立てを講じるようにする。 ・課題が達成できた生徒については、次の課題を検討する。
-------------	--

高等部重複障がいグループ

1 単元名

「ミニモップとダストクロス作り」

2 単元設定の理由

本グループに在籍する生徒は、重複障がい学級類型Ⅰの教育課程で学ぶ高等部1～3年の8名で構成されており、生徒の障がいの程度及び興味関心、コミュニケーションの方法も様々である。

2・3年生については、昨年度も週に1回を目安として合同で生活単元学習の中で「ミニモップとダストクロス作り」に取り組んできた。より大きな集団の中で活動することで、友達の様子を意識したりすることや集中力を高めたりすることが少しずつ身についてきている。また、1年生についても、「ミニモップ作り」は簡単で繰り返しの活動であるため覚えやすく、扱う毛糸も加工しやすく色や長さに変化を持たせることが容易で、比較的飽きずに取り組むことができる活動である。

学習活動に関心を持ち見通しを持って根気強く取り組むことや、その活動が次の活動に活かされることができるのは大切なことである。また、このような学習を通して主体的学びを育てていくことで、卒業後の生活の中で時間を有効活用できることや活動の幅を拓き趣味の育成や余暇活動の充実につなげ、少しでも能動的に生活していくことに結び付けていければと考える。

そこで、本グループでは「ミニモップとダストクロス作り」の指導を通して、主体的学びを育むための指導のあり方について、研修を深めていくこととした。

3 授業の構想（対象：T（1年生男子）について）

（1）生徒の実態（児童生徒観）

活動には指示があれば取り組むことができるが、次の活動への移行は自分からは難しい。反面、取り組み始めると終わりの判断ができずに、教師が止めるよう合図するまで続けてしまうこともある。

（2）教材設定について（教材観）

ミニモップ作りの活動は、簡単で単純な活動の繰り返しであるため覚えやすい。

また、扱う毛糸は処理しやすく、色や長さに変化を持たせることも容易に取り組める活動である。さらに、活動の始まりや終わりを確認しながら取り組むこともできる。

（3）実践の意図（指導観）

生徒の実態に応じた工程にしたり補助具を用いたりすることで、それらを手がかりとしながら、なるべく主体的に取り組むことができるようにしたい。

4 授業の実際（振り返りシート含む）

活動開始当初は、目標数等は決めずに生徒の活動の様子から実態を見るようにした。その結果、次の点を確認した。

- (1) 指示があれば取り組めるが、自分から次の活動に取り組むことが難しい。
- (2) 終わりの判断ができずに、教師が止める合図するまで続けてしまうことがある。

この点の改善するために、2学期途中（11月）から視覚的に分かりやすい補助具に代えることにより、見通しをもって活動に取り組めるようにすることや、活動手順と終わりが明確に分かる手順表を活用しながら経過を観察するようにした。

また、振り返りシートについては授業の振り返りの際、変容が見られた時に加筆しながら活用した。

5 成果と課題

(1) 授業改善について（指導案・シート含む）

授業改善については、補助具は計測用の見本から1～10の数字を書き入れた同じ長さの見本表に変更し、自分ではさみを使い糸を切るようにした。さらに、大まかな活動の手順を書いた工程表を用い、取り組んでいる活動がその都度確認できるよう目印をつけた。

これらに変更した結果、材料を提示すると自分で一定の長さに切りそろえて取り組んだり、工程表をもとに取り組む活動を確認しながら次の活動を確認したりすることで、活動の終了後は次の指示があるまで待つことができる場面が多くなった。

(2) 目標と評価について

主体的な学びの実現に向け、補助具と手順表を工夫することで生徒が少しでも主体的に活動できる状況作りにつなげることができた。さらに、活動に見通しを持つことができていることで、長期の休みなどで継続して授業が実施できないことがあっても、再開時には混乱せずに自分から取り組むことも確認できた。

目標や内容については、時間の経過とともに少しずつ高いものにしていくことが望ましい。今後も同様の活動を行っていく場合には、生徒が達成感や充足感を得ながら、少しずつステップアップができる工夫が必要である。

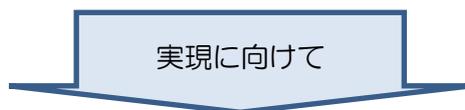
(3) 主体的な姿について

主体的な取り組みに重点を置きながら見守る姿勢ですすめたことで、自分で取り組む場面が多くなり一定の成果を得ることができた。しかし、回数を重ねても活動量はなかなか増えないことが反省としてあげられた。そこで、興味・関心を引き出しながらペースを上げていく手立ても必要であることが今後の課題である。

主体的な学びへの授業改善シート

学部 ・学年等	高等部 重複学級合同	場所	高1-2教室 高2・3複式教室	単元名 ・題材名	「ミニモップとダストクロスを 作ろう」
教科・領域	生活単元学習	指導者	高倉雅尚、永山麻美子 高木光太郎、山内勇人 馬目知恵、吉田光二	主な活動 内容	・毛糸を使ったモップの制作 ・古タオルを使用した雑巾の制作

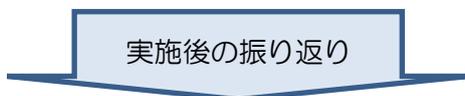
児童生徒に育みたい 「主体的に学ぶ」姿	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で活動に見通しをもち、なるべく少ない支援で活動に取り組める力。 (主体的な学び) ・自ら考え、次の活動に移行することができる。(思考・判断力)
------------------------	---



P	現段階での課題	<ul style="list-style-type: none"> ・指示があれば活動に取り組む事ができるが、次の活動への移行が難しい。 ・活動の終わりの判断が難しく、制止されるまで活動に取り組んでしまう。
	解決のための 具体的な手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的に分かりやすい補助具を工夫することにより、見通しをもって活動に取り組めるようにする。 ・活動手順が分かり、終わりが明確に分かる活動手順表の活用。



D 学習内容	支援と指導上の留意点
(ミニモップの制作) ① 毛糸を同じ長さに切りそろえる。 ② 10本ずつ毛糸を準備する。 ③ 毛糸をワイヤーハンガーにくくり 付ける。 ④ ①～③を繰り返し行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的な姿を引き出すための手立て」は※印をつける。 ○ 同じ長さに毛糸を切りそろえることができるよう、補助具を使用し、巻き付けることで長さを計測するようにする。 ※ ①毛糸の長さ計測用の見本の毛糸を使用することで、一人で活動に取り組むことができる。(1学期) ※ <u>②計測用の見本から、1～10の数字を書き入れた同じ長さの見本表を活用し、はさみで毛糸を切るようにする。(2学期以降)</u> ○ 活動に見通しがもてるように、簡単な工程表を提示し、確認しながら活動を進めていくようにする。 ※ <u>大まかな活動の手順を書いた工程表に変更し、取り組んでいる工程が分かるように印をつけるようにする。(2学期以降)</u>



<p style="text-align: center;">C 評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 生徒の活動に注目して、手立てが有効だったかを確認する。 <u>○毛糸の長さを一定にするための補助具を活用すると、はさみを使い自分で一定の長さに切りそろえて取り組むことができるようになった。</u> <u>○手順を示した工程表をもとに、取り組む活動を確認しながら次の活動を順番に確認することで、活動が終了したら次の指示があるまで待つことができる場面が多くなった。</u> <u>○補助具と手順表の工夫により、生徒が少しでも自分から活動できる状況作りにつなげることができた。</u>
---	--



<p style="text-align: center;">授業改善の ポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 繰り返しの活動となるため、終わりが明確に分かるようにする。 • 補助具と手順表のさらなる工夫と改善。 <p style="text-align: center;">～次年度に向けた改善ポイント～</p> <p><u>○主体的な取り組みに重点を置き、見守る姿勢ですすめたことで一定の成果を得ることができた。一方で、活動量はなかなか増えないことから、ペースを上げていく手立ても検討していく必要がある。</u></p>
---	---

Ⅲ 研修のまとめ

1 小学部研修のまとめ

小学部では、「主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業作り～主体的な学びを育てるために～」というテーマに基づいて、学年ごとの4グループに分かれて、生活単元学習の授業作りについて研修をしていくことになった。

小学部では、発達段階や興味関心、経験値などを踏まえて、1学年、2学年、3学年、4・5学年の小集団での合同学習を行っており、グループごとにテーマを設け、友達と一緒に活動する活動に取り組んできた。

1・2学年の低学年の段階では、学校に入学して集団生活を始めた1学年の取り組みをみると、一人遊びが中心であったり大きな集団での活動を苦手としたりする児童が多くみられ、教師と1対1のかかわりから、他学級の教師や同じ学年の友達と一緒に活動する小集団に慣れるための活動に取り組んできた。小集団の中で、ラジオ体操、リトミックや手遊びを通して教師と1対1でやりとりを楽しんだり自由遊びの時間を設けて、集団の中で落ち着いて好きな遊びを楽しんだりできる場面を作り、『遊びたい』『遊んでみよう』という気持ちを引き出す授業作りを行ってきた。2学年では、昨年の経験を踏まえて、学級から学年の集団の中で、友達との関係作りに取り組むことにした。友達に注目しやすい「誕生会」の活動を通して、友達とのかかわり合いや一緒に過ごす中で『やってみよう』から『やりたい』という意欲と『できた』を実感できる達成感が得られる授業作りをめざして取り組んできた。

中学年の段階である3学年では、昨年度取り組んだ遊びの学習を通して、友達と一緒に活動することの楽しさを経験してきた。今年度は、集団の中での自分の価値に気づき、主体的に考えて取り組む態度につなげていくための取り組みとして、『友達と一緒に楽しく取り組める合同学習の授業作り』をテーマに、みんなで楽しく取り組むために必要なきまりや自分の「役割」を設定して取り組む「誕生会」の活動を行ってきた。

4・5学年の高学年では、昨年一年間の合同学習を通して、友達と同じ活動をする経験や役割を分担して活動する経験をしてきたことを踏まえ、友達のために『やりたい』友達と一緒に『できた』という気持ちを引き出すための授業作りをテーマに、「誕生会」の活動の中で自分から友達とかかわり、「一緒にやりたい」「一緒にやると楽しい」、「〇〇さんのために〇〇したい。」という気持ちを引き出す取り組みを行ってきた。

(1) 成果（有効であった手立て）について

① 見通す力

【低学年】

- ・ラジオ体操では、毎時間一つの動きを取り上げ、ゆっくりなテンポで確認することで、体操の方法や順番を覚えて取り組むことができた。
- ・ボウリングゲームと会食の二つの内容を行い、場所を変えて実施したことで活動の流れが分かり、スムーズに取り組むことができた。
- ・会場の飾りつけ、ゲームの準備、片付け、会食の準備など、実態に合わせて役割を分担し、少人数で取り組ませたことで自分の役割や、やるべきことが分かり、テーマに近づいた姿が見られた。

【中学年】

- ・一人一人に応じた役割を繰り返し行ってきたことで、役割への取り組みがスムーズになった。はじめに決めた役割への取り組みがスムーズになったことで、新たな役割を増やしても取り組めるようになった。
- ・ただ役割があるだけではなく、役割の先に楽しみがあるからこそ一人一人が進んでできた。

【高学年】

- ・調理実習の際に、教師の促しを受けて、生地を混ぜるときにボウルを押さえたり、カップに入れるときにボウルやカップをさえたりすることができた。手伝うと友達がやりやすいことが分かったと、自分から押さえることができた。

② 主体的な姿

【低学年】

- ・リトミックでは、準備から片付けまでの流れを、様々な曲を聞き分けて自分から取り組むことができた。手遊びでは、ペアになった友達を意識して手をつないだり自分から次のペアの友達の場所に移動したりすることができるようになった。
- ・自由遊びの場面では、自分から教師の手を引き、教師を誘いかける様子が見られるようになった。
- ・ボウリングゲームの場面では、お互いの顔を見てボールの受け渡しをし、「どうぞ」「ありがとう」のやりとりが育ってきた。
- ・会食準備の場面では、お菓子と飲み物を運ぶ際に、誕生者に「一番先に渡す。」と考えて行動することができた。
- ・自分の役割や活動内容が分かり、楽しんで参加している姿が見られた。友達のかかわりを受け入れてやりとりが生まれたり友達と一緒にやる意識が育って協力したりする姿も見られるようになった。

【中学年】

- ・子どもたち自身が役割を選んだため、全員が自分の役割に責任をもって取り組むことができた。

【高学年】

- ・給食のときに、教師と会話することが多かったが、友達に「おいしいですか。」と話しかけたり、教師の支援がなくても身振りでおいしいと返事をしたりすることができるようになってきた。
- ・音楽の授業では、今まではほかの学級の児童と一緒に発表することを嫌がっていた児童も、ほかの学級の児童を選んで発表することができるようになった。

(2) 課題について

【低学年】

- ・集団での決まった活動ができるようになってきたので、今後は簡単なルールのある遊び（しっぽとりなど）に取り組んでみる。
- ・一人遊びから、教師と遊ぶようになってきた児童もいるため、教師を介して友達とやりとりをしたり関わったりする場面（「かして」「どうぞ」「ありがとう」「まぜて」など）を意図的に設定していく。
- ・遊びを通して対教師との関係から学級の友達、他学級の友達、他学年の友達とのつながりを目指していく。
- ・次年度に向けて、交流、共同学習を見据えた遊びの活動や大きな集団への参加を目指した活動を取り入れていく。

【中学年】

- ・だれがどんな場面でどんな主体的な姿があったのかシートに記入できるとよかったのではないかな。

【高学年】

- ・主体的な姿を引き出すために、児童みんなが興味関心をもって取り組めるような学習内容を取り上げる必要があった。特に、会食で食べるものでは、誕生者にとっては好きな食べ物であっても、そのほかの児童にとってはあまり好きな食べ物ではないことがあった。

来年度、小学部は、1学年から6学年まで全学年が揃うことから、来年度も今年度と同様に学年ごとのグループに分かれて研修を行う際には、低学年、中学年、高学年の発達段階を踏まえて、系統的、発展的な学習計画を立案し、互いに情報交換をしながら、つながりをもたせた授業作りをめざしたい。

2 中学部研修のまとめ

今年度、「主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業作り～主体的な学びを育てるために～」というテーマに基づき、中学部では、通常グループと重複グループの2グループに分かれて、生活単元学習の授業作りについて研修をしていくことになった。

今年度の重点課題である「主体的な学びを育てること」に着目し、はじめに、「主体的に学ぶ姿とは？」を全員で共通理解するために、各が思う主体的な姿を出し合った。たくさんの意見が出たが、それらを簡単にまとめると、「生徒が**興味関心**をもって、**内容が理解**でき、**見通し**をもって、**自分から(一人で)**、**根気強く**、自分の**課題や目標**をもって**意欲的**に取り組む姿」ということになった。そこで、单元ごとに対象生徒を決め、その生徒が主体的に取り組むために、どんな手立てを工夫すればよいかを考え、「主体的な学びへの授業改善シート」を活用しながら授業を改善していった。その中での成果と課題について以下のようにまとめた。

(1) 成果(有効であった手立て)について

①環境の整備

- ・生徒が注目できる位置にホワイトボードや使用する道具、材料など配置する。
- ・必要のないものは見えところに置かない。
- ・使い終わったものはすぐに片付ける。

②個々の実態に即した環境の整備

- ・活動する際に適した姿勢(立位、座位など)を検討する。
- ・対象物の位置(固定、高さ、角度など)を検討する。

③イメージをもたせる

- ・活動(学習内容)の流れを一定にする。
- ・見本、完成品を提示する。
- ・映像や実演で説明する。

④言葉かけ

- ・生徒が理解できる言葉や表現(表示)で指示する。
- ・できたときには即時に称賛する。

⑤実態にあった課題の精選

- ・難しすぎず、簡単すぎず、できるだけ一人で取り組めるものを選ぶ。

⑥具体的な目標と評価

- ・本時や活動毎など短時間での明確で達成可能な目標を設定する。
- ・映像や画像での振り返りをする。(客観的にみることができる)
- ・授業の最後に発表や評価をする。(教師または生徒自身で)

これらの手立ては、生徒が「わかる、できる」ための工夫であり、研修のはじめに全員で共通理解を図った「主体的な姿」の内容理解、見通し、意欲などにつながったと思われる。そして、対象生徒に有効であったばかりでなく、その他の生徒にも大変有効であった。

また、重複グループでは、特に①や②の手立てが重要であることがわかった。日頃から教室環境の整備をしておくことはもちろんのことであるが、授業に必要なものを必要なだけ、適切な配置で提示することや、一人一人の実態を把握し、個々にあった事前の教材準備の大切さを再確認することができた。通常グループでは、「一人で行える」ための③、⑤、⑥などの手立てが重要であることがわかった。自分自身のことを正しく理解し、目標や課題を意識して取り組めるように見通しをもたせたり振り返りをしたりする際にICTを活用することが有効であることを実感した。このように、中学部の中でも発達段階の違いによって有効な手立てにも違いがあることがわかった。

主体的な学びへの授業改善シートについては、7月の夏期セミナーの際に中西先生より助言をいただき、「育みたい主体的な学びの姿」の項目を入れ、さらに中学部では、授業改善の過程がわかるようにシートに実施日やナンバーを記入する欄や主体的な姿とは別に、対象生徒の目標を記入する欄を設けるなどの工夫・改善をした。

(2) 課題について

重複グループの生活単元学習の授業には、学級担任・担当以外にも複数の教員が曜日によって異なるメンバーで授業に入っているため、事前の教材研究、準備の役割分担や事後の振り返り（指導者間での情報の共有）などが難しかった。振り返りシートの回覧なども試みたが、翌日の授業に間に合うように全員が記入し、回覧することができず、効果的な振り返りの仕方を検討しなければならないと感じた。早めの計画や明確な役割分担、授業の始まりや終わりに生徒と共に振り返りをしていくことなどで改善していきたいと思う。

また、中学部全体の課題として、教科の目標との関連性を意識した指導ができなかったことがあげられる。「主体的な学び」が授業の目標ではなく、目標を達成するために手立てを工夫することで生徒の主体的な姿がみられ、目標達成につながっていくことを全員で再確認し、新学習指導要領の教科や自立活動の目標を確認しながら次年度の指導計画を立てたいと思う。

3 高等部研修のまとめ

高等部では「主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業作り～主体的な学びを育てるために～」というテーマに基づき、生徒の卒業後の社会生活や就労生活を見据えて、高等部で求められる「主体的に学ぶ姿」について、通常グループと重複グループに分かれてK J法で意見を出し合うことにした。

通常グループでは、任された仕事に継続して取り組める力（体力や健康面・精神面の安定）に加えて、言われたことをこなせる**指示理解力**、時間を意識しながら場面に合った行動を行える**判断力**、自分自身に興味をもって取り組むための**意欲**を育むことができるよう、職業科の時間の中でS S Tを盛り込んだ学習場面を設けたり、生徒の実態に合わせた気分転換の方法を身に付けたりする学習について意見が挙げられた。

重複グループでは、一定時間活動に取り組むことができる**集中力**や、任された作業に最後まで取り組む**責任感**を育むことができるよう、3学年合同で生活単元学習に取り組む時間を設け、各生徒が役割を分担して制作活動に取り組むことが挙げられた。

また、通常グループと重複グループで共通して、分からないときや困ったときに自分から相談や質問をしたり、相手を意識して自分の意見を伝えたりする**コミュニケーション能力**が挙げられた。

各グループで挙げられた「主体的に学ぶ姿」の実現に向けて、通常グループは職業科、重複グループは生活単元学習の授業づくりを進める中で、「主体的な学びへの授業改善シート」を活用して生徒の課題や必要となる手立てについて確認し、授業後の振り返りから授業の改善や有効な手立てについて整理することにした。

(1) 成果（有効であった手立て）について

【通常グループ】

①生徒自身が目標を意識できる環境の整理

- ・それぞれの生徒の目標について複数の教員で確認し、共通理解を図る。
- ・生徒は授業の始めに自分の目標を教師と確認する。
- ・授業の終盤にシートに反省を記入するようにする。その際、目標について生徒の自己評価に加えて、教師も生徒の取り組みについて同じシートに記入し、生徒には口頭でも具体的に伝えるようにする。

②それぞれの生徒が目標を達成できるための場面設定

- ・「丁寧な言葉で話をする」が目標の生徒には、誤った言葉づかいが見られた際にホワイトボードに正しい言葉づかいを伝える。
- ・「分からないことを自分から質問したり確認したりする」が目標の生徒には、「教えてください。」の手話を伝え、活動で戸惑う場面が見られた際に教師に質問するようにする。
- ・上記の他、それぞれの生徒の目標に応じて、部品の個数を調整したり、他の生徒と協力して活動する場面を設けたりした。

【重複グループ】

①補助具の改善

- ・ミニモップの制作の際、毛糸の長さを揃えて切れるように補助具を作成した。
- ・取り組みの様子から補助具を改善すると、対象生徒は自分で一定の長さに切りそろえて取り組むことができるようになった。

②工程表の提示

- ・活動の手順を示した表を提示し、取り組んでいる工程が分かるように印をつけた。
- ・活動の終わりが分からずにいた生徒が、工程表で活動の流れを確認することで、一定の活動量が終わると次の活動まで待つことができるようになった。

高等部では、通常グループは複数の生徒を対象に、重複グループは一人の生徒を対象に授業改善に取り組んだ。どちらのグループも授業を計画する際に対象となる生徒に育みたい「主体的に学ぶ」姿について整理し、授業を振り返る中で課題を整理しながら具体的な手立てを検討した。

シートや補助具、工程表をといった視覚的な手立てを準備することで、教師が繰り返し言葉かけをするのではなく、生徒が自ら自分の目標や活動内容について把握して取り組めるようになった。これは、生徒が卒業後に就労したり日常生活を行ったりする中で、より自主的に活動に取り組む際の手立てとして有効に機能するものであると考える。

(2) 課題について

通常グループでは、生徒の目標について適切な場面設定を行うよう努めたが、教員の想定するような生徒の変容に結びつかないケースもいくつかあり、個に応じた場面設定の難しさを感じた。重複グループでも同様に、生徒の情緒や体調の具合によって毎回の授業の取り組みにも差が大きく、手立ての有効性を恒常的に検証できなかった。生徒の変容を読み取るためには、複数の教員で生徒の課題について多方向から検証することと、長期的な振り返りを繰り返し行うことが必要と考える。

来年度も同様にグループに分かれて研修を行う際には、グループ同士での授業の参観や振り返りを実施することで、生徒の課題について話し合っって学部内で共有したり、有効な手立てについてより複数の観点から検討したりすることで、日々の学習を生徒の卒業後の社会的自立に結び付けられるように努めたい。

4 研修のまとめ

本校では、学習指導要領の改訂を受けて、研修テーマを「主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業づくり」とし、下記のような研修仮説を基に授業のPCDAサイクルを活用した研修に取り組んできた。今年度は1年次として「主体的な学びを育てるために」という副題を設け、「授業の振り返り」を軸として育成すべき資質・能力（育みたい力）が身に付くのかを主体的な学びを育てる授業改善で探っていった。どのような目標を設定するのか、どのような手立てを講じればいいのかを学部の実態に応じた振り返りシートを作成・活用し、授業づくりに取り組んだ。以下に本研修の成果と課題について記述する。

○ 研修仮説

場・内容等	手立ての工夫	目指す姿
日々の授業	<ul style="list-style-type: none"> ・単元における児童生徒の適切な目標を設定 ・児童生徒の主体的な姿に着目した支援の工夫 ・シートを活用した評価・改善を繰り返す 	児童生徒がより前向きな動機や課題意識をもって活動に取り組む

(1) 成果

① 主体的な姿（主体的に学ぶ力）とは

研修が始める際に、学部やグループにおいて主体的な姿、主体的に学ぶ力について話し合いを行った。それぞれについては以下のとおりである。

学部	主体的な姿（主体的に学ぶ力）	
小学部	1年	『遊びたい』『遊んでみよう』という気持ちをもてる
	2年	『やってみよう』から『やりたい』という意欲 『できた』を実感できる
	3年	合同学習において友達と一緒に楽しく取り組める
	4,5年	「一緒にやりたい」「一緒にやると楽しい」、「〇〇さんのために〇〇したい。」という気持ちをもてる
中学部	生徒が 興味関心 をもって、 内容が理解 でき、 見通し をもって、 自分から（一人で）、根気強く 、自分の 課題や目標 をもって 意欲的 に取り組む姿	
高等部	通常	任された仕事に継続して取り組める力（体力や健康面・精神面の安定） 言われたことをこなせる 指示理解力 時間を意識しながら場面に合った行動を行える 判断力 自分自身が興味をもって取り組むための 意欲
	重複	一定時間活動に取り組むことができる 集中力 任された作業に最後まで取り組む 責任感
	共通	相手を意識して自分の意見を伝えたりする コミュニケーション能力

② 有効であった手立て

それぞれのグループ、学部から出された有効な手立てを類似する項目で分類すると以下のようにまとめられる。

有効であった手立て	
目標と評価	<ul style="list-style-type: none"> ・本時や活動毎など短時間での明確で達成可能な目標を設定する。(中) ・映像や画像での振り返りをする。(客観的にみることができる)(中) ・授業の最後に発表や評価をする。(教師または生徒自身で)(中) ・子どもたち自身が役割を選んだため、全員が自分の役割に責任をもって取り組むことができた。(小) ・「丁寧な言葉で話をする」が目標の生徒には、誤った言葉づかいが見られた際にホワイトボードに正しい言葉づかいを伝える。(高) ・「分からないことを自分から質問したり確認したりする」が目標の生徒には、「教えてください。」の手話を伝え、活動で戸惑う場面が見られた際に教師に質問するようにする。(高) ・目標について生徒の自己評価に加えて、教師も生徒の取り組みについて同じシートに記入し、生徒には口頭でも具体的に伝えるようにする。(小) ・それぞれの生徒の目標について複数の教員で確認し、共通理解を図る。(小)
環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が目に見える位置にホワイトボードや使用する道具など配置する。(中) ・必要のないものは見えるところに置かない。(中) ・使い終わったものはすぐに片付ける。(中) ・授業の終盤にシートに反省を記入するようにする。(高) ・活動する際に適した姿勢(立位、座位など)を検討する。(中) ・対象物の位置(固定、高さ、角度など)を検討する。(中) ・生徒は授業の始めに自分の目標を教師と確認する。(中)
教材	<ul style="list-style-type: none"> ・難しすぎず、簡単すぎず、できるだけ一人で取り組めるものを選ぶ。(中) ・それぞれの生徒の目標に応じて、部品の個数を調整したり、他の生徒と協力して活動する場面を設けたりした。(高) ・ラジオ体操では、毎時間一つの動きを取り上げ、ゆっくりなテンポで確認することで、体操の方法や順番を覚えて取り組むことができた。(小) ・リトミックでは、準備から片付けまでの流れを、様々な曲を聞き分けて自分から取り組むことができた。(小) ・ミニモップ制作の際、糸の長さを揃えて切れるように補助具を作成した。(高) ・取り組みの様子から補助具を改善すると、対象生徒は自分で一定の長さに切りそろえて取り組むことができるようになった。(高) ・自分自身のことを正しく理解し、目標や課題を意識して取り組めるように見通しをもたせたり振り返りをしたりする際にICTを活用することが有効である。(中)

見 通 し	<ul style="list-style-type: none"> ・活動（学習内容）の流れを一定にする。（中） ・見本、完成品を提示する。（中） ・映像や実演で説明する。（中） ・ボウリングゲームと会食の二つの内容を行い、場所を変えて実施したことで活動の流れが分かり、スムーズに取り組むことができた。（小） ・実態に合わせて役割を分担し、少人数で取り組ませたことで自分の役割や、やるべきことが分かった。（小） ・一人一人に応じた役割を繰り返し行ってきたことで、役割への取り組みがスムーズになった。はじめに決めた役割への取り組みがスムーズになったことで、新たな役割を増やしても取り組めるようになった。（小） ・ただ役割があるだけではなく、役割の先に楽しみがあるからこそ一人一人が進んでできた。（小） ・活動の手順を示した表を提示し、取り組んでいる工程が分かるように印をつけた。 ・活動の終わりが分からずにいた生徒が、工程表で活動の流れを確認することで、一定の活動量が終わると次の活動まで待つことができるようになった。（高） ・生徒が理解できる言葉や表現（表示）で指示する。（中） ・できたときには即時に称賛する。（中）
や り と り	<ul style="list-style-type: none"> ・給食のときに、教師と会話することが多かったが、友達に「おいしいですか。」と話しかけたり、教師の支援がなくても身振りでおいしいと返事をしたりすることができるようになってきた。（小） ・音楽の授業では、今まではほかの学級の児童と一緒に発表することを嫌がっていた児童も、ほかの学級の児童を選んで発表することができるようになった。（小） ・手遊びでは、ペアになった友達を意識して手をつないだり自分から次のペアの友達の場所に移動したりすることができるようになった。（小） ・自由遊びの場面では、自分から教師の手を引き、教師を誘いかける様子が見られるようになった。（小） ・調理実習の際に、教師の促しを受けて、生地を混ぜるときに手伝うと友達がやりやすいことが分かると、自分から押さえることができた。（小） ・ボウリングゲームの場面では、お互いの顔を見てボールの受け渡しをし、「どうぞ」「ありがとう」のやりとりが育ってきた。（小） ・会食準備の場面では、お菓子と飲み物を運ぶ際に、誕生者に「一番先に渡す。」と考えて行動することができた。（小） ・自分の役割や活動内容が分かり、楽しんで参加している姿が見られた。友達のかかわりを受け入れてやりとりが生まれたり友達と一緒にやる意識が育って協力したりする姿も見られるようになった。（小）

③ シートの活用

ア 単元振り返りシート

小学部では、単元を1つのまとまりとした単元振り返りシートにより単元ごとの振り返りを行った。「お友達と遊ぼう」「誕生会をしよう」という繰り返しの単元を設定することで、育みたい力を具体的にスモールステップ化することに有効であり、教科等の合わせた指導の中の教科指導を意識して授業に取り組むことができるようになってきた。

イ 主体的な学びへの授業改善シート

中学部、高等部では授業の計画と振り返りを行うにあたり、「主体的な学びへの授業改善シート」を活用して生徒の主体的な学びが授業にどのように盛り込まれているかを確認できるようにした。

年度初めからの取り組みで、授業を計画する際に生徒の実態と課題を整理し、解決に向けた手立てを検討する際に活用することができた。また、授業の振り返りの記録として用いることで、それ以降の授業の準備に活用するといった授業改善のためのPDCAサイクルを進めることができるようにした。

本校で今年度7月に行った夏季セミナーでは、講師の十文字学園女子大学 人間生活学部 児童教育学科の中西郁教授からご助言をいただき、シートの上部に「育みたい主体的な学びの姿」を記入できる項目を追加した。これにより、授業を計画する段階で生徒に育みたい主体的な姿について、より具体的に整理して授業を検討することができた。

(2) 課題について

それぞれのグループが今年度、実践を行ったことで、様々な課題が挙げられた。類似する項目で分類すると以下のとおりである。

① 内容のステップアップ

- ・集団での決まった活動ができるようになってきたので、今後は簡単なルールのある遊び（しっぽとりなど）に取り組んでみる。（小）
- ・一人遊びから、教師と遊ぶようになってきた児童もいるため、教師を介して友達とやりとりをしたり関わったりする場面（「かして」「どうぞ」「ありがとう」「まげて」など）を意図的に設定していく。（小）
- ・遊びを通して対教師との関係から学級の友達、他学級の友達、他学年の友達とのつながりを目指していく。（小）
- ・次年度に向けて、交流、共同学習を見据えた遊びの活動や大きな集団への参加を目指した活動を取り入れていく。（小）

② 課題設定

- ・主体的な姿を引き出すために、児童みんなが興味関心をもって取り組めるような学習内容を取り上げる必要があった。特に、会食で食べるものでは、誕生者にとっては好きな食べ物であっても、そのほかの児童にとってはあまり好きな食べ物では

ないことがあった。(小)

- ・生徒の目標について適切な場面設定を行うよう努めたが、教員の想定するような生徒の変容に結びつかないケースもいくつかあり、個に応じた場面設定の難しさを感じた。

③ 共通理解・振り返りの工夫

- ・低学年、中学年、高学年の発達段階を踏まえて、系統的、発展的な学習計画を立案し、情報交換をしながら、つながりをもたせた授業作りをめざしたい。(小)
- ・学級担任・担当以外にも複数の教員が曜日によって異なるメンバーで授業に入っているため、事前の教材研究、準備の役割分担や事後の振り返り(指導者間での情報の共有)などが難しかった。(中)
- ・生徒の情緒や体調の具合によって毎回の授業の取り組みにも差が大きく、手立ての有効性を恒常的に検証できなかった。生徒の変容を読み取るためには、複数の教員で生徒の課題について多方向から検証することと、長期的な振り返りを繰り返す行うことが必要と考える。(高)
- ・振り返りシートの回覧なども試みたが、翌日の授業に間に合うように全員が記入し、回覧することができず、効果的な振り返りの仕方を検討しなければならないと感じた。早めの計画や明確な役割分担、授業の始まりや終わりに生徒と共に振り返りをしていくことなどで改善していきたいと思う。(中)
- ・グループ同士での授業の参観や振り返りを実施することで、生徒の課題について話し合っって学部内で共有したり、有効な手立てについてより複数の観点から検討したりすることで、日々の学習を生徒の卒業後の社会的自立に結び付けられるように努めたい。(高)

④ シートの改善

- ・だれがどんな場面でどんな主体的な姿があったのかシートに記入できるとよかったのではないかと。(小)
- ・育みたい力の教科をカッコ書きで記入すると、教科についてもっと分かりやすかった。(小)

⑤ 教科の目標の意識

- ・教科の目標との関連性を意識した指導ができなかった。新学習指導要領の教科や自立活動の目標を確認しながら次年度の指導計画を立てたいと思う。(中)

このように、それぞれの実践を受けて、大きく5つの課題点が明らかになった。①に関しては、成果にも挙げられるように実践を積み重ねていったことで、さらなる実践に繋がっていくことが期待できる。②に関しては、さらなる実態把握、教材研究の必要性があると考えられる。実践を通して、教材や児童生徒を見る目を養っていきたい。③に関しては、今までの課題である共通理解の方法としての振り返りの持ち方について、実践を通して見つけていかなければいけないと考える。④、⑤については、さらに研修を重ね、より良いシートの使用法、学習指導要領についての理解を図っていくことが大切だと思われる。よって、今後の研修を通して、課題について改善する方法を模索していきたい。

5 次年度の方向性

これまでに挙げた研修の成果と課題を踏まえ、次年度の研修の方向性を示す。

まず、研修の仮説については、課題を受けて下記のように変更する。

○研修仮説

課題関連図、学びの履歴シートを活用することにより児童生徒の実態把握を行うことで、日々の授業において適切な目標を設定することができ、シートを活用した主体的・対話的で深い学びの授業改善を行うことで、目標達成につながるのではないか。

研修方法については、下記の方法で行う。

○研修方法

- 1 全体研修会において、研修グループ、グループリーダー、研修教科等、対象児童生徒を決定する。
- 2 グループで対象児童生徒の課題関連図、学びの履歴シートを作成、見直しする。
- 3 研修教科等について、学習指導要領を活用し、適切な目標設定を行う。
- 4 特別支援教育センターや外部講師の講話より、主体的・対話的で深い学びの授業改善の視点について確認し、各資料や授業についての指導助言を受けて改善する。
- 5 振り返りシートを活用し、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善を行う。
- 6 報告会を通じて、校内全体で共通理解を図りながら研修を行う。

次年度の研修計画については、月1～2回、研修の日を設定し、進めるものとする。

○研修計画

月	内容
4	第1回全体会 グループリーダー研修会
5	課題関連図の作成・見直し
6	学びの履歴シートのチェック 振り返りシート、授業案の作成
7	研修会「主体的・対話的で深い学びの授業改善について」(外部講師)
9	セミナー(外部講師)
10	中間報告会
11	振り返りシートを使った授業改善(特別支援教育センター)
12	中間報告会を受けての授業改善(シートの活用)
1	中間報告会を受けての授業改善(シートの活用)
2	全体報告会

研修同人

校長 小河原 健一
教頭 佐藤 浩士
教務主任 鷺 真智子
木谷 俊彦
小林 卓司

【小学部】

齋藤 比呂子
小鍛治 由美
古川 貴美
渡邊 智美
菅野 幸恵
山田 真里恵
八巻 愛理
井戸川 恵子
本田 慎一
有賀 理恵
服部 祥貴
石橋 佳奈
原田 駿
木幡 碧
江尻 智子
永山 智恵子
二上 真也
鈴木 沙智子
水野 順貴
西山 仁美

【中学部】

小川 美子
花岡 賢
石塚 多恵子
加藤 良一
鈴木 美佳
鈴木 紳也
齋藤 隆寿

養護教諭

児玉 芳枝

【高等部】

青木 詩子
坂本 公司
吉田 光二
佐藤 光弘
高倉 雅尚
黒澤 朋美
山内 勇人
佐藤 雄哉
後藤 景子
(林 友子)
小檜山 真由佳
(水野穂乃花)
鈴木 由美
馬目 知恵
永山 麻美子
秋元 孝志
高木 光太郎
大橋 和央
須田 亜紀子

平成30年度 研修集録

平成31年3月1日発行

発行者 福島県立富岡支援学校

【本校・小学部】〒970-0116

福島県いわき市平字馬目字馬目崎6-1(仮設校舎)

電話 0246-34-7050 FAX 0246-34-7052

【中学部・高等部】〒979-0102

福島県いわき市四倉町字五丁目4(四倉高等学校内)

電話 0246-32-7172 FAX 0246-32-7179

8 おわりに

今年度は、特別支援学校学習指導要領（小学部・中学部）の改訂を受け、研修テーマを「主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり」として、学部ごとに実践、研究を進めてきました。新学習指導要領への対応は喫緊の課題であり、講演会の開催や研修講座への参加など、学習指導要領改訂の趣旨を理解するための取組も同時並行的に進めてきたところです。

さて、働き方改革を推進するための関係法律が整備され、教職員においても長時間勤務の改善や年次有給休暇の取得率の増加など、具体的な対応が求められています。教職員の研修活動は、よりよい授業を構築・実践する上でなくてはならないものであり、積極的に行う必要がありますが、教職員の負担感を軽減するような仕掛けもあわせて考えていかななくてはなりません。

そのために、どのような研修を行えばよいのか、考えてみました。

1つは、カリキュラムマネジメントの観点から、研修の成果が教育課程の改善に直接つながるものになるとよいのではないかとということです。

例えば、今年度、高等部通常の学級「職業科」の授業において、日々の授業の振り返りや進路指導主事との話し合いを通して、「年間指導計画」の見直しが進められました。日々の授業実践・評価を通して、年間指導計画の見直しを行うことを目的に1年間研修を進めていくことも意義のあることであり、まさしく一石二鳥の取組ではないかと考えます。

2つめは、研修内容が日々の指導計画や評価（記録）に直接つながっていくものになるとよいのではないかとということです。

特別支援学校学習指導要領解説自立活動編においては、実態把握から具体的な指導内容の設定に至るまでの詳細な流れ図が示されたり、各教科等を合わせた指導においては各教科の関連を明確にすることなど、新学習指導要領への対応が求められています。自ずと指導計画作成や評価（記録）にかかる時間が増えていくことが予想されます。また、我々が大事にしている「日々の授業の振り返り」を充実したものにするためには、TT間や学習グループのメンバーによる意見のすりあわせの時間を十分に確保する必要があります。これら日々の授業改善に向けた取組を研修計画の中に組み入れることで、指導計画や評価（記録）にかかる時間の省力化が図られるのではないかと考えます。また、複数の目で話し合いが行われることで、計画や評価の妥当性も高まるものと考えます。

1年の終わりの時期に、お互いが「少し大変なところもあったけれど、充実した研修だったね。」と言い合える研修になることを期待して、結びの言葉に代えたいと思います。